

全国曹洞宗青年会  
sousei

特集

仏教者の「宗教教育」へのかかわり方を考える

No.133

2006.Apr

# 日めくり伝道句集

## 「めぐりあいの力」

### 実費頒布の御案内

青少年教化委員会では、青少年教化資料として、これまで2回にわたって、壁掛け伝道句集を発行してまいりました。

今期も、更なる熱意をもって伝道句集の作成に取り組み、1日から31日まで毎日めくれる「日めくり伝道句集」を作成いたしました。

青少年や檀信徒の布教・教化資料として、また、お盆やお彼岸のお返しとして使っていただければ幸いです。

なにとぞ御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### ○頒布価格

1部250円で実費頒布（送料込み）  
1口50部単位でお願いいたします。

#### ○お申し込み方法

下の申込用紙に必要事項を御記入の上、郵送またはFAXにてお申し込み下さい。

#### ○お申し込み先

〒028-2105 岩手県宮古市和井内13-8-5  
慶徳 雄仁 宛  
FAX 0193-83-7370  
E-mail yuzin-keitoku@palette.plala.or.jp

#### ○お問合せ先

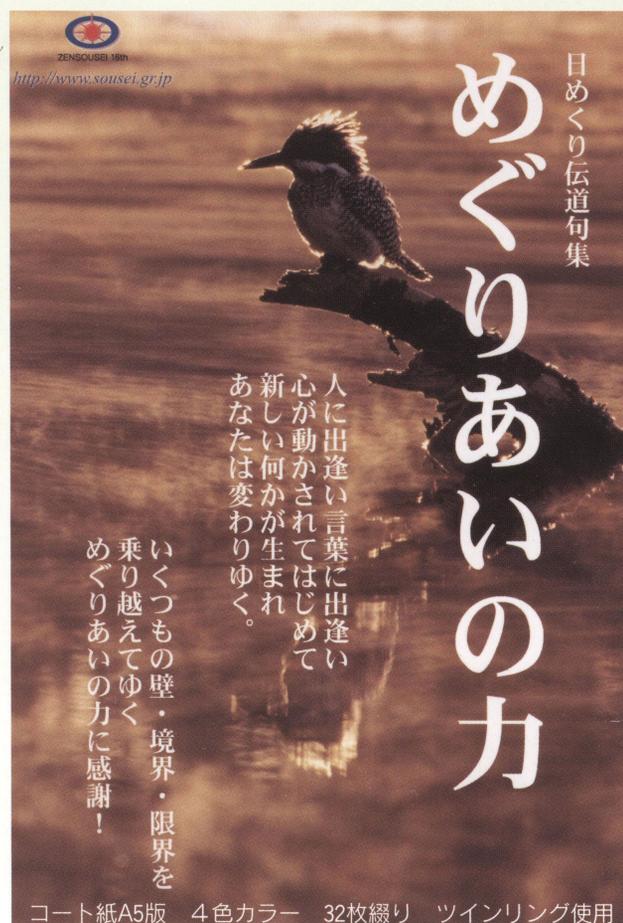
青少年教化委員会田中光顕まで  
FAX 0969-35-1676  
E-mail koken@mountain.ocn.ne.jp

#### ○お申し込み期限

平成18年7月10日までとさせていただきます。  
但し、4万部限定発行ですので、なくなり次第、終了させていただきます。発送は、6月1日から7月20日にかけて、申し込み順に発送させていただきます。

#### ○代金支払い方法

製品に同梱されている振込用紙で、到着後10日以内にお振り込み下さい。



### 日めくり伝道句集「めぐりあいの力」申し込み書

申し込み数量	部（50部単位でお願いいたします。）		
都道府県	第 宗務所	第 教区	寺籍番号 番
御寺院名		御住所	〒 -
御氏名		電話番号	( ) -



Contents

04 仏教者の『宗教教育』へのかかわり方を考える

- 宗教教育のための覚え書き
- 「教育基本法」改正推進派・反対派 その問題点
- 宗教教育アンケート実施報告

12 「EN×EN」ぴーぷる／小牧市薬王寺・高瀬元勝師

15 全曹青情報局

- 全日仏・千僧法要告知／全曹青 平成18年度 定期総会開催告知
- 青少年教化委員会紹介

18 青少年教化委員会レポート — 精神医療の現場から(3) —

19 IT智慧ぶくろ

20 世界の重層信仰(3) — インドにおける宗教的重層性 —

22 「禅」知識まんたら(4) — 止観の坐禅 —

24 賛助会名簿

26 青年会モザイク — 曹洞宗福島県青年会 —

27 そうせい相談室

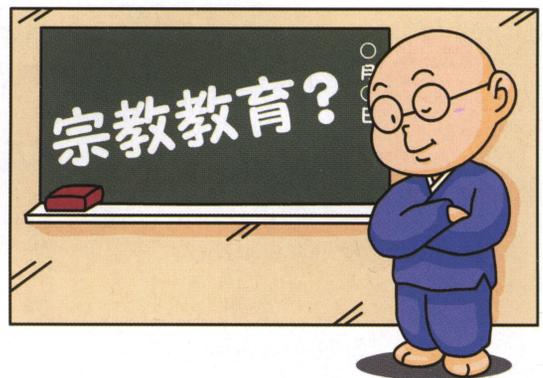
28 あまらずそうせい

29 菜食健美

30 寺族の窓

31 そうせいサロン

32 そうせい美術館 — 産土(うぶすな) —



# 仏

## 教者の“宗教教育”への かかわり方を考える

東京新聞・夕刊（二〇〇六年三月六日付）の二面記事によれば、「教育基本法改正案と党合意なら提出」との見出しで、「安倍晋三官房長官は六日午前の記者会見で、教育基本法改正案の今国会提出について『極めて重要な法案だから、与党の協議が整えば、ぜひ提出したい』と、強い意欲を示した」と報じられていました。

現在、戦後六十年にわたって公立学校における宗教教育のあり方を規定してきた「教育基本法」が、国会において改正されようとしています。特に、私たち仏教者にとってもかかわりの深い同法第九条第二項——「国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。」——は、「信教の自由」を守るための砦である反面、子どもたちに“いのちの大切さ”を学ぶ機会さえも奪ってしまった張本人とも見られる、いわくつきの条文です。

改正のポイントは、この第九条第二項の「公立学校における特定の宗教のための宗教教育の禁止」は現行法のままとしながらも、「宗教的情操の涵養については尊重すべし」とするか否かにあります。もしも同法が改正された場合、私たち仏教者が公立学校へ出向いて、宗教的情操を育むための教育を行うといったこともありうるのでしょうか。

「そつせい」では、かつて第一二二二号・一二三三号で取り上げた宗教教育特集を踏まえつつ、衆議院の勢力図から同法改正が現実味を帯びるいま、あらためて「宗教教育とは何か」「私たち仏教者は宗教教育とどのようにかかわるべきか」を考えるための材料として、本企画を提案させていただきました。

# 教育基本法(条文)

朕は、枢密顧問の諮詢を経て、帝国議会の協賛を経て教育基本法を裁可し、ここにこれを公布せしめる。

われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。

われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。

ここに、日本国憲法の精神に則り、教育の目的を明示して、新しい日本の教育の基本を確立するため、この法律を制定する。

## 第一条(教育の目的)

教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

## 第二条(教育の方針)

教育の目的は、あらゆる機会に、あらゆる場所において実現されなければならない。この目的を達成するためには、学問の自由を尊重し、實際生活に即し、自発的精神を養い、自他の敬愛と協力によつて、文化の創造と発展に貢献するように努めなければならない。

## 第三条(教育の機会均等)

すべて国民は、ひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならないものである。この地位又は門地によつて、教育上差別されない。②国及び地方公共団体は、能力があるにもかかわらず、経済的理由によつて修学困難な者に対して奨学の方法を講じなければならない。

## 第四条(義務教育)

国民は、その保護する子女に、九年の普通教育を受けさせる義務を負う。②国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料は、これを徴収しない。

## 第五条(男女共学)

男女は、互に敬重し、協力し合わなければならないものであつて、教育上男女の共学は、認められなければならない。

## 第六条(学校教育)

法律に定める学校は、公の性質をもつものであつて、国又は地方公共団体の外、法律に定める法人のみが、これを設置することができる。

②法律に定める学校の教員は、全体の奉仕者であつて、自己の使命を自覚し、その職責の遂行に努めなければならない。このためには、教員の身分は、尊重され、その待遇の適正が、期せられなければならない。

## 第七条(社会教育)

家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によつて奨励されなければならない。②国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館等の施設の設置、学校の施設の利用その他適当な方法によつて教育の目的の実現に努めなければならない。

## 第八条(政治教育)

良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない。②法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

## 第九条(宗教教育)

宗教に関する寛容の態度及び宗教の社会生活における地位は、教育上これを尊重しなければならない。②国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

## 第十条(教育行政)

教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接に責任を負つて行われるべきものである。②教育行政は、この自覚のもとに、教育の目的を遂行するに必要な諸条件の整備確立を目標として行われなければならない。

## 第十一条(補則)

この法律に掲げる諸事項を実施するために必要がある場合には、適当な法令が制定されなければならない。

## 附則

この法律は、公布の日から、これを施行する。

## 第九条(宗教教育)

①宗教に関する寛容の態度及び宗教の社会生活における地位は、教育上これを尊重しなければならない。②国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

## ◎本条の趣旨

・本条は、憲法第二十条第三項を受けた規定。  
・第一項は、すべての教育を通じて、宗教教育が重んぜられるべきことを前提として、宗教教育の在り方を示すもの。  
・第二項は、憲法の政教分離の規定を受けて、国公立学校の宗教的中立性、すなわち宗教教育の限界(特定の宗教のための宗教教育ないし宗教的活動の禁止)を示すもの。

## (参考法令)

①第二十条 宗教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。  
②何人も、宗教上の行為、祝典、儀式又は行事に参加することを強制されない。  
③国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。

## ◎「宗教の社会生活における地位」

宗教が歴史上社会生活において果たしてきた役割、過去の偉大な宗教家の人格、宗教が現在の社会生活に占めている地位、及びその社会的機能、及び宗教の本質等を、一宗一派に偏することなく、客観的態度で教材の中に取り入れること

## ◎「特定の宗教のための宗教教育」

学説上、以下のいずれも禁止されると解するのが有力。  
a. 特定の宗教のための宗教教育  
b. すべての宗教のための宗教教育(宗教一般を宣伝する目的で行われる教育)  
c. 宗教を排斥することを目的として行われる教育

## ◎「宗教的活動」

「宗教的活動」の意味については、「行為の目的が宗教的意義をもち、その効果が宗教に対する援助、助言、促進又は庄迫、干渉等となる行為」(昭和52年最高裁判決)とされている。

(文部科学省ホームページより抜粋)

# 宗

## 宗教教育のための 覚え書き

梶原敬一

### 1、はじめに

宗教という言葉によって、人は、それぞれさまざまな事柄をイメージすることでありましょう。人間を超えた存在としての神、あるいは仏、さらに、人間にとって未知なる世界としての死後の世界について、また日常の経験を超えた神秘的体験等々、まさに一人一人、異なったイメージを持っていると言っても過言ではないと思われます。このように多様なイメージを持った宗教は、果たして、宗教として、一つにまとめて論じることが出来るか否かということは、決して、宗教を外から見て言うのではなく、一つの宗教を信じる人達が、他の宗教を宗教として認められるのか否かといった問題となつて、現実には、さまざまな衝突を生み出していることも、否定出来ない事実であります。しかし、にもかかわらず、宗教という言葉によって、ある共通したものを表わしていると私達は、直感的に了解しています。それは、何かということから、まず考えていきたいと思えます。

### 2、宗教とは何か

宗教は、何のために存在しているのでしょうか。現に、この日本において、宗教を持たないと無宗教を公言する人は少なからず、存在しています。しかし、その人達は、本当に宗教を持たずに生きているのかということが問題なのです。勿論、既存の宗教団体や、宗教儀礼などに依存することなく生きておられることは明白な事実でありましょう。しかし、それでも、「宗教はない」と果たして、言いきれものなのでしょうか。宗教を自覚的に選ばれた人達は、その宗教によって、それまで苦しみ悩みつづけた人生が救われたと言われます。宗教によって、自らの人生が救われたと言われるのです。無宗教の人達は、自らの人生に苦しみ、悩むことなどないというのでしょうか。私は、自分の人生に苦しみ、悩むことのない人はいないと思います。それは、およそ、人として生まれ、生きることをその身において知っている人は、誰も、自分がまた死ぬべき存在で

あることを知っているからです。やがて、死を迎え、生が終わることを自覚したものととつて、この人生が、如何なる意味をもつていたのか、また自分が生まれてきたことに、どのような意義があつたのかと自問せざるを得ないと思うのです。そして、そのような問いを持つた時に、この人生の意味を明らかにし、自分自身の存在の意義を見出す以外に、自分が生きていくことを支えるものは何もないと思うのです。それを、宗教に求める人も、無宗教に求める人も、求める心は同じだと言えるのではないのでしょうか。宗教とは、このような人間に、救いとして生きる方法を示すものと言えるのではないかと思います。

### 3、宗教心とは何か

この救いを求める心は、宗教を求める心そのものであり、宗教心と呼ばれるものと言えましょう。そして、宗教心が、自らの死を自覚する中で、自分自身の生の意味を明らかにしようとすることから生まれ始めることは、先に述べた通りです。しかし、それは、ただ、明らかにすることだけで止まるもので

はありません。むしろ、その自覚の後に、これから如何に生きていくべきかという問いを生み出すものでもありません。宗教心によって、人生が見通されたと同時に、宗教心が、この人生をいかに生きていかなければならないのかとして、私自身を問うものとして用(はたら)きはじめるのです。

#### 4、宗教心の展開

いかに生きるべきかという問いは、自分自身の生き方を問うものであると同時に、いかなる関係を生きるのかという事へと展開していきます。自分の生と死を通して、はじめてそこに生き、死んでいく人達の存在に出会いしめるのです。そして、宗教心において、共に生きるとは何かという事が、私自身の課題となっていくのでしよう。それが、宗教が、個人的な宗教心によって生み出されながら、自身の救済を通して、他者の救済を求める形で、一つの社会として、宗教的集りを形成していくのです。

また、他者は、生きている者と同時に、死んで逝った者達でもあります。この死者達との関係を切り開いていくことも、宗教の必然的な展開の中に起こってくるものなのです。およそ、宗教でありながら、死者との関係に、関わらないものがないのは、そういうことなのだと考えられるのです。

#### 5、宗教団体について

この他者との関係へと展開した宗教は、宗教団体となっていく傾向が加速されてしまいます。この集団化された宗教は、しかしながら、果たして個々の宗教心に応えるものか否かを、どの集団の中にあっても注意深く見ていかなければならないと思われまふ。それ



は、宗教心もまた個々の宗教心から集団化された、いわば集団の宗教心に変わりうるからです。さまざまな宗教団体の中にあつて、宗教心が、その教団特有の理解のもとで、一つの心として理解されていく傾向が強いことから否定出来ないものであります。この集団化された宗教心は、逆にひとりひとりの宗教心——自分自身の存在を恢復したいという願い——を見えなくしてしまう危険性をも持ったものです。そして、時には集団のために死ぬことまで救いだということを教義として唱えます。それは、他国の問題ではなく、我が国の歴史の中にも示されている通りです。

#### 6、カルト教団について

宗教について、今日の社会的問題の一つに、カルト教団の問題があります。カルト教団といっても、私達の常識では理解出来ない教義を持ち、反社会的活動を行なうものといった曖昧なものです。しかし、およそ宗教的真理は、その集団に入れるほどに信ずることが出来なければ、決して日常の意識で理解出来るものではありません。既成の仏教、キリスト教の教義も、信じる（信仰、或は信心）以外に理解しえないものであることは言うまでもありません。従つて、カルトか否かというのは、社会が、その存在に馴れるか、

或は教団が社会に適應したのか、ということだけになることになりまふ。また、単にそれだけではないはずで、むしろ、その教義を疑い、批判する人達に、開かれているか否かによつて、カルトと区別されるものこそ、真の教団と言えるでしょう。

#### 7、宗教と教育について

教育は一人ひとりに、自分自身の生き方を問い、自らの人生を歩む力をつけようとするものであります。その意味では、宗教と同じ目的を持ったものと言えます。しかし、そこに、自身の死を通して見出される存在の自覚が要求されるなら、その任に教育者一人であたれるのか否かについて、十分に議論されなければなりません。また、教団としての宗教をそのまま教育の場に持ち込むことは、さらに危険なものとなりうるのです。そのために、宗教を宗教心として、信をむしろそれを疑うものとして教えることこそ、大切だと思ひます。

○梶原 敬一（かじわら けいいち）

一九五五年（昭和三十年）愛媛県生まれ。京都大学医学部卒業。姫路医療センター小児科医長であるとともに真宗大谷派僧侶でもあり、真宗大谷派（東本願寺）教学研究所属託研究員も務める。近著に『生きる力』（東本願寺出版部）がある。

# 教

## 育基本法 改正推進派・改正反対派 その問題点

### 洗 建

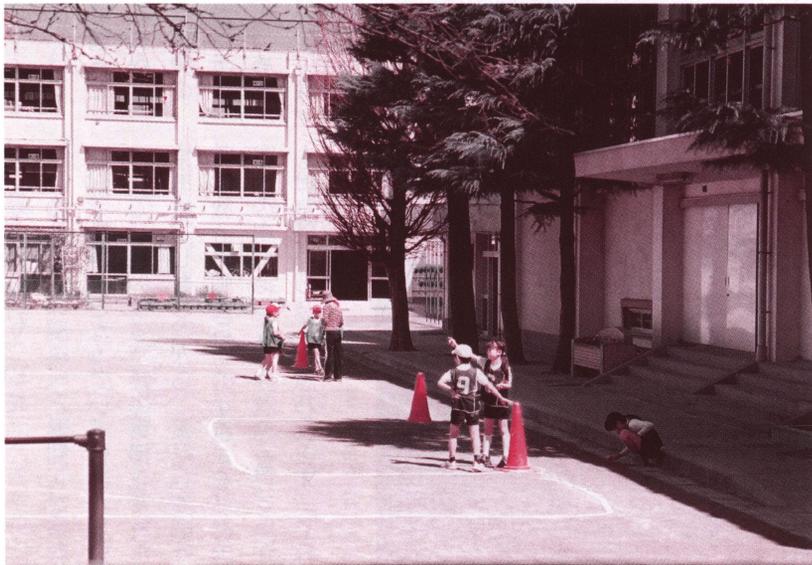
#### 1、いまなぜ

##### 教育基本法改正なのか

現在、第一六四回通常国会が開かれています。政府・与党による戦後教育の抜本的見直しの総決算として教育基本法の見直しが検討されています。

この教育基本法改正に関しては、全日本仏教会も、現行法第九条の定義からさらに踏み込み、「宗教に関する寛容の態度及び宗教的情操の涵養は、これを尊重する。」との条文化を求め、中央教育審議会（中教審）に提出しました（平成十五年二月四日付け）。このように、政界や宗教界が教育基本法の改正を目指す理由はどこにあるのでしょうか。

特に、最近では「学校の荒廃、教育の崩壊」ということが言われ、確かにかなり深刻な状況があります。こ



の状況に対して、「道徳教育が欠如しているからだ。やはり道徳教育、むしろその基本としての宗教教育を施すべ

きである」ということを言う人が出てきました。この学校が荒れているという状況の改善のために、まず教育基本法を改正しようとするような機運は、「宗教教育とは何か」「宗教的情操とは何か」といった考察を踏まえない、単純で危険な発想だと思えます。

#### 2、「宗教の自由」に立脚する

##### 教育基本法

ところで、なぜ教育基本法第九条は、特定の宗教のための宗教教育を禁じているのでしょうか。それは、日本という国の宗教との対応のしかたの基本として、「国民の宗教の自由を保障する」という考え方があるからです。憲法第二〇条で謳われているこの「宗教の自由」という国民の大きな権利、これに国家が介入してはいけないということなのです。教育と宗教との関係では、教育基本法第九条第二項で「国及び地方公共団体が設置する学校」においては、宗教教育がはつきりと禁じられています。但し、私立学校では自由に宗教教育をやつてかまわないということになつており、これは戦前の日本とはだいぶ違います。

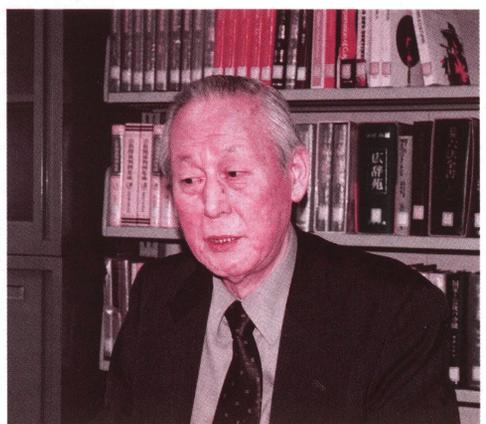
戦前の日本では、私立学校でも宗教教育は原則禁止でした。明治期以降、キリスト教系のさまざまなミッションスクールが創立され、人気を呼んでいました。「このままだとキリスト教が日本に浸透してしまう……」ということで、キリスト教の浸透を嫌った明治政府は、学校教育から宗教をすべて排

除するという政策をとつたのでした。

#### 3、特定の宗教抜きの

##### 「宗教的情操教育」はない

それに対しては、やはり宗教界からもいろいろ不満がありました。日本政府が初めて「宗教的情操教育」というようなことを言いだしたのが昭和十年（一九三五年）なのですが、この少し前にマクドゥーガルとかオットーといった人たちが、「すべての宗教に共通する宗教的情操というものがある」という、当時としては新しい学説を出しました。そこで、たぶんこれは宗教学関係の人だと思えますが、「特定の宗派の教育はいけなくけれど、宗教的情操の教育は、やっつていいのではないか」という進言を政府にしたのだと思います。それで政府は、「特定の宗派的教育はいけなくけれど、一般的な宗教的情操の涵養というのは大事であ



るから、これは公立学校も含めてやらなくてはいけない」と方針を転換しました。

ところが、「特定の宗教と関係のない一般的な情操情操」などというものが存在するという考え方、あるいはそういう教育をするという議論をしているのは日本ぐらいです。世界の常識では、宗教教育とは特定の宗教の信仰と結びついて、それに基づく教育を行うというものであつて、「特定の宗教とは関係なしに宗教的情操教育ができる」などという考え方は、どこの国も認めていません。

なぜなら、たとえば、「愛情」という場合でも、言葉としては愛情という一般概念で表現されますけれども、実際の情操というのは具体的な「この子」という対象がいて、そこで愛情という情操が生まれてくるわけです。ですから、情操というものは、対象と密着して初めて生まれてくるというわけのものです。

これは宗教においても同様であり、そもそも「すべての宗教に共通するよくな、一般的な宗教的情操」というものは存在しない」と同時に、「情操というものは、特定の宗教に基づいてこそ生じる」ということは明らかだと言っていると思います。

それでは、国が宗教的情操教育を行うおとした場合、国民にどのような情操を育むのでしょうか。たとえば、二月十一日の建国記念の日は、戦前は紀元節といわれ「神武天皇が即位された

日」とされてきました。その日は、それをお祝いするための儀式が学校で行われるので、授業はありませんでしたが、生徒はみんな登校させられたのです。そして、祝いの儀式とともに多くの学校では、神武天皇を祀っていると思われる奈良県の橿原神宮に向かって、遥拝といつて一斉に礼拝するということが行われていたのです。

この礼拝のような儀式というものは、人びとが参加してその宗教の実践に関わっているということなのです。儀式にはそういう意味があり、そういう宗教の実践に生徒たちが関わることで感情的・感覚的な体験を生じ、その積み重ねによって情操というものが形成されていくわけです。逆に言えば、国家神道が「特定の宗教」だったからこそ、そういう情操教育が可能だったというわけです。

#### 4、公立学校における

##### 「宗教教育」の限度

ただ宗教というものは、人類の歴史を通してずっとこの社会の中にあつて、人びとの生き方に関わっている非常に重要な存在です。それゆえ、国立の学校が宗教についてまったく何も触れないで、宗教に関する何の準備も知識も与えずに、子どもたちを世の中に出してしまうということは、問題であると思います。「相手に信仰を持たせる」といったような教育はやってはいけないのですが、宗教の信仰というものの性質はたつき——何らかの宗

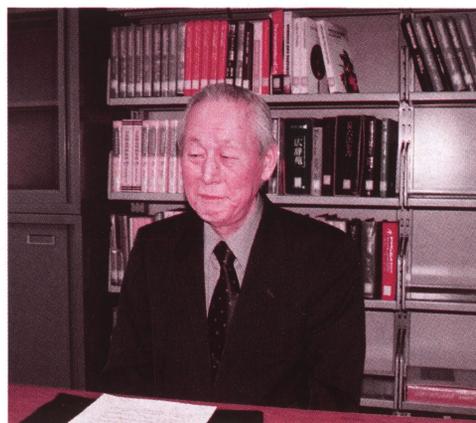
教を受け入れるということは、私たちが自身の生き方の基本を形成することになる等々——について理解させる。「何で宗教というものがあのか」「宗教がこの社会において、あるいは人生においてどういうはたらきをしているのか」という側面を理解させる。そういう理解をさせるための教育というのは大切ですね。

これは情操教育ではありません。あくまで知的な教育なのです。そういうことを理解させて、「そのあとでどう選択するか」ということは学校が関与すべき問題ではないのです。宗教とはこういうものだということを理解させた上で、生徒が自分で選択できるような準備を与えていくという教育、これこそ私が必要だと思つたのです。ただ、そういう教育をしようとする、いまのところまず教材もないです、第一先生がいらないですね。一つには、いろいろな宗教についての知識を広く持つていないといけないこともありますけれど、同時に宗教を中立的に取り扱うときの「取り扱ひ方のトレーニング」を受けた先生でないと、それは簡単にはできないのです。人間というのは、誰でも「自分の価値観」というものを持って

いますから、知らず知らずのうちに自分の価値観のほうに誘導してしまうという恐れが非常に大きい。だから、宗教について中立的な教育を行うためには、組織立って、それができるような教員の養成から始めないと、とても難しいだろうと思います。

そのように、いろいろな宗教を中立的に扱う学問というと、いちばん狭い意味での実証的学問としての宗教学、あるいは宗教学や宗教学民俗学などが、宗教に対して中立的なアプローチ





をしようにという学問です。それでも、単に「そういう講義を聴いた」というだけでは不十分です。やはりゼミなどで実際に自分自身が研究をやつて指導を受けて、その「中立的なアプローチ」というものを身に着けていく……。そういう経験を踏んだ人でないと、宗教に関する教育を取り扱うというのは難しいだろうと思います。ですから、宗教についての教育を改善していこうとするならば、まず教員の養成というところから始めなければならぬと思います。

## 5、教育における

### 宗教者(僧侶)の本分とは?

そういう意味からすると、「私たちが僧侶が教えるとしたら、何をどのようになに教えるか……」という企画のテーマを見ますと、お坊さんが多く受けてきた仏教学という学問は、「仏教が大前

提」「仏教が真理である」ということを前提にして行われている学問ですから、その教育を受けた人がいきなり公立学校で宗教を教えるとなると、どうしても特定の方向に人びとを引っ張っていつて「信教の自由」を犯すという危険が極めて大きいと思います。

それは僧侶であるなしにかかわらず、特定の信仰を持っていないという人であっても「その人の価値観」というものがあります。それと、対象として宗教を扱うとき、そこには「自分の価値観と学問を切り離す」ということは、信仰を持つ人であるとなかろうとやらねばならないことなのです。自分の価値観にスーツと引きずられた形で宗教を扱ってしまうと、非常に危ないのです。

ところで、宗教者のいちばん大切な仕事とは何でしょうか。いま、公立学校で行われるべきだと論じてきた「宗教に関する知的な理解」そのものが、生徒たちには直接的に信仰心とか信仰を持つにいたらせるわけではないのです。ですから、ほんとうは宗教のいちばんの核心の部分の教育は、学校がやるものではないのです。つまり、ここは宗教家の出番なのです。それこそ僧侶が直接、人びとに伝道していくという活動です

ね。これは学校でやるのではなくて、お寺でも辻説法でもいいし、あるいは家庭を通してでもいいのです。このような、宗教の信仰心を育てるような教育は宗教家の出番であつて、学校から離れた民間で行われるべきことです。

### ○洗 建(あらい けん)

一九三五年(昭和十年) 京城(現ソウル)生まれ。駒澤大学元教授。東京大学文学部宗教学科卒業。同大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程満期退学。専攻は宗教学、宗教学の宗教学的的研究。著書は『宗教と法制度』(相国寺教化活動委員会)のほか、共著および論文多数。



寺院用仏具・仏壇・製造販売  
曹洞宗梅花流法具販売指定店



ほう こう  
放 光

本店・工場	〒940-0825	新潟県長岡市高畑町617番地	☎(0258)33-5644
新潟店	〒950-0941	新潟市女池2丁目2-11	☎(025)280-1550
川越店	〒350-0036	川越市小仙波2丁目20-1	☎(049)227-7666
高崎営業所	〒370-0046	群馬県高崎市江木町1179-2	☎(027)324-3721
長野営業所	〒380-0911	長野市稲葉1980-1	☎(026)222-3811

<http://www.hoko-butugu.com/>

# 「そうせい」講読者を対象におこなった「宗教教育」に関するアンケート

広報委員会では、宗教教育に関する特集企画に先立ち、アンケートを実施しました（なお、このアンケートは「そうせい」第一三三号に掲載しました「憲法第九条改正についてのアンケート」同様、昨年十一月に開催された評議員会の出席者に対して行われました）。

現在、公立学校における宗教教育は「教育基本法」第九条第二項によって禁じられています。それはこの法律が、国家神道の事実上の国教化によって国民の精神・信仰を強固に束縛した戦前・戦中の宗教政策への反省に立脚しているからです。

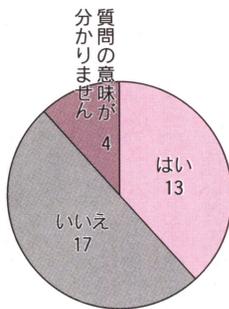
しかし、凶悪犯罪や儲け主義のマナーゲーム、公務員による汚職事件等々に関する報道に接したとき、それらの事象を根本的に正していくには子どもたちから宗教に基づく教育を施すしかないのではないか、という思いが湧き起こってきます。

それでも、公立学校において宗教教育が実施されるためには、「誰が何をどのように教えるのか」といった問題を、憲法で保障されている「宗教の自由」を踏まえつつクリアしなければなりません。

読者のみなさまは、このアンケート結果をご覧になって、この宗教教育にまつわる問題をどのようにお考えになりますか？

【回答総数34】

① 「宗教教育」の代わりに「哲学」「倫理」「道徳」が担えると思いますか？



いいえと答えた方は理由をお聞かせください

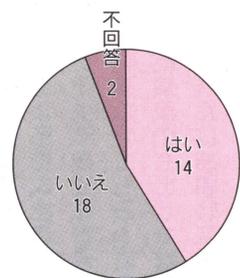
- 似て非なるものだから。
- 重なる部分が多いが「信心」までは補えないと思う。
- 現状の学校教育の方法は精神性の質という角度から見ると大きく欠如しているから。

② 「宗教教育」が必要だと思つのはどんなときですか？

- 凶悪犯罪を見たとき（命の尊さが軽んじられたとき）。
- 各々そなわる素性、人格を讀めることができなくなってきたと思うとき。

- 生まれたときから仏壇のある家の子となない家の子はどこか違うとよく言われます。その「どこか」が宗教教育の必要なところだと感じます。
- 感謝するべきときなのに感謝が見えないとき。
- 霊感商法など新興宗教団体等のトラブルの報道を目にしたとき。
- 古き良き日本の長所が語られるとき、食事の前に挨拶がなされないとき。

③ 公立学校における「宗教教育」と「個としての信仰心」との折り合いはつけられると思いますか？



④ ある学校において食事の前の合掌は宗教的行為であるとしてトラブルが生じました。あなたはどう思いますか？

- 頭でだけ考えるとそういうトラブルも起こりうるわけです。それも問題です。
- 問題外、それじたいが本来の宗教という意味からはずれた空論。食事の前の合掌は自然な姿。
- トラブル自体がナンセンス。
- 屁理屈を言いだしたらきりがない。
- 尊さを知らないということは寂しいことだと思えます。
- 食事の前の合掌は日本古来よりの美德。この様なことでトラブルが起こることが嘆かわしく思えます。
- 合掌は確かに宗教的行為であるかもしれないが、同時に深く日本の文化に浸透したものの。個人の信仰心と折りとして行うのが望ましい。
- 本人の自由意思に任せるべき。
- 仏教団体が容易に「合掌」という言葉を使いすぎていないか。自戒の意味を込めて考え直す必要があるかも。
- 信仰の自由と照らし合わせ、やむを得ない場合もあると思う。
- 合掌を強制する必要はない。

⑤ 「宗教教育」は誰によって施されるべきでしょうか？（複数回答可）

- a 宗教者 b 教師 c 親 d その他
- a 24 b 5 c 19 d (対象年齢によって変えるべき) / 地域や社会全体で、など)

政府・与党および文部科学省主導で進められている「教育基本法」改正議論は、私たち僧侶にとつてどのような意味を持つものなのでしょう？ また、もしも公立学校における宗教教育が「解禁」になったときは、私たち青年僧侶が教壇に立つという状況もありうるのでしょうか？

アンケート結果を拝見しますと、宗教および宗教教育の必要性は認識しながらも、「公教育における宗教教育と個としての信仰心との折り合いはつかか」との問いに対しては懐疑的な意見も少なくないなど、「布教伝道」と「特定の宗教の押しつけ」とのはさまで揺れ動く青年僧侶の姿が表われているように思えます。

「宗教教育」問題は、信仰という個人の内的問題であるとともに、日本の近現代史という公的問題をも含む複雑なテーマであります。私たちはこの問題を、一人の僧侶（宗教者）としてと同時に、一人の国民としても考えていく必要があるのではないのでしょうか？



# ぴーぶる

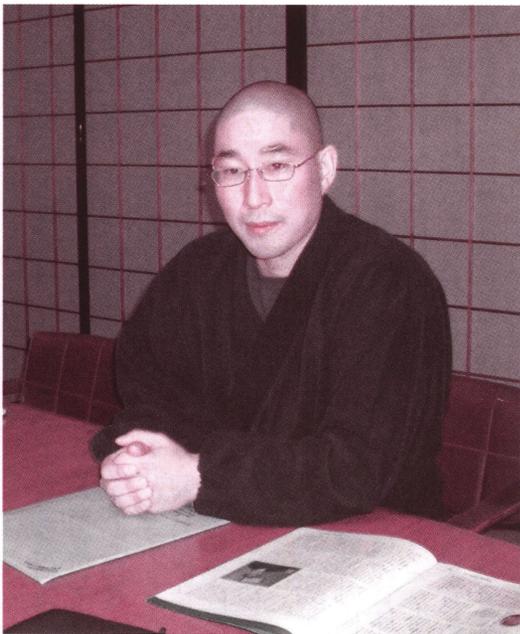
自分ができる寺院活動を探し求めて

曹洞宗 薬王寺住職・高瀬元勝師

今回の「ぴーぶる」は、人間の苦の原因を心に求める従来の考え方を抜け出し、欲望の生ずる肉体の健康を求めて修行することで、心の健康を導くというユニークな発想をもとに、活動を展開している高瀬元勝さんを紹介しています。活動基点の福厳寺は、地域の駆け込み寺として、幅広い厚い信頼を得ています。そうした活動の背景について、彼の熱い思いを聞いてきました。

—高瀬さんは生まれ育った福厳寺の敷地内に自費でメディカルトレーニング

センターを設立し、多様な活動を展開されているようですね。



高瀬元勝師

【高瀬】私にはいくつかの顔があるんです。それは坊さんとしての顔もそうですし、それから空手の指導をしています。あとは治療家であるということですね。それから隣接の幼稚園のほうで講師をしております。これらは別々のことをやってるようだ

けれども、実はその根底に流れてる理念は一つの考えから来ているんです。つまりお坊さんというのは何をやる人なのか、私ができるお坊さんとしての活動は何だろうか、逆に言えば私しかできないお坊さんとしての活動は何だろうかということをおさんさん考えたあげく、自分の中に持っている引き出しを使って布教をしていくということが、誰にも遠慮せず、胸を張って堂々とできることなのではと気づきました。そして発菩提心というところへ最終的には行くんです。

—そういった僧侶観というのはどう醸成されてきたのですか。

【高瀬】私が育ってきた環境というのがすごく大きく影響していると思います。一つは、やっぱり師匠から影響を受けたというのが大きいですね。師匠は駒澤大学で教鞭をとっていて、それから福厳寺の住職となりました。私は次男として育ったんですけど、幼少からずっと厳しく育てられてまして、お寺の手伝いや掃除は当たり前で、師匠は口癖のように「お寺は個人の財産じゃない。あくまで私が今住職をしていて、住まわせてもらってるだけであって、高瀬家のものじゃないんだから、ご本尊さんに感謝してお寺の手伝いをしなさい」と話していました。私は朝早く起きるのも嫌だし、髪の毛も伸ばして色気も出したいという中で

葛藤があつて、どうしてうちだけこんなこと言われなきゃいけないんだものすごく反発したんです。

—それは、親に対してとお寺とかお坊さんというものに対する嫌悪もあつたのでしょうか。

【高瀬】師匠も福厳寺の檀家を解散してメンバー制のお寺にしていたり、お金がない中で幼稚園を建てたりとか必死でやってたので、子どもの相手もできないし、必死だったと思います。

ただ僕は髪の毛伸ばしてパーマかけたりして、精いっぱい反発をしてみましたね。家が嫌いでしたから、自分の中で温めてきた福厳寺脱出計画を企てようとしていたんです。(笑)

—計画は実行されましたか。

【高瀬】結局周りの助言もあり、駒澤大学へ行ってみて、仏教を勉強してみても嫌だったらやめようということになりました。そして受験しましたが、帰りの新幹線の中で、親の手のうちにはまったような気がして「僕は何をやってるんだろう」と思いました。なぜなら、脱出計画を立てているほど嫌だったわけですから。そして家に帰ってきてから苦しくなっちゃいまして、少し日本から離れたらいい貯金を使いオーストラリアに行きました。現地では、友人を訪ねるにあたり、お金がもつたないのでテントとバックパックを買って、ヒッチハイク

をすることにしました。そこで大きなトラブルにあったんです。

実はあるトラックの運転手にだまされたんです。ヒッチハイクである場所に降ろされたのですが、夜だったものから、とりあえず TENT を張ってそこで寝たんです。そして朝起きてみたらなんと砂漠のど真ん中だったんです。周りには何もありませんでした。でもとりあえず歩いていけばどこかの町に出るだろうと思って、ずっと歩いていました。結局三日間誰にも会いませんでした。食べ物もなく、自分の汗を舐めながら歩きましたね。不安と恐怖でノイローゼ状態でした。

そして四日目ようやくオーストラリア軍の砂漠演習に出会い助けられました。このとき泣いて仕方がなかったんです。自分が生まれてからそのときまで、妹とけんかをしたり、親に歯向かったり、むちゃくちゃなことを言ったり、学校の先生に黒板消しを投げたりと、今までの出来事が走馬灯のように頭の中にどんどんどんどん出てくるんです。多分初めて親から離れて、ひよつとしたら自分は死んでしまうかもしれないという怖さがずっとあったと思います。僕はずっと生意気でした。お金もある。親の世話になんかならなくてもいいと思ってたのが、初めて親元から離れて、大自然の中で自分が独りで生きてるんじゃないということに

気づいたんだと思うんですよね。それで、自分がいかにみんなに助けられて生きてたか、独りになったら何にもできないということの思い知ったんだと思うんです。

縁起を実感として受け止めた瞬間です。それからは人生観みたいなものは変わりましたか。

【高瀬】それから仏教をきちんと勉強して、私に何ができるのだろうという模索が始まりました。大学では友人の紹介で空手を始めました。自分の体を鍛らせて弟子に技術（法）を伝えていく感覚と感覚のぶつかり合いが気に入りましたね。その後大学院に進みそれでも自分の中で答えが出せないで悶々



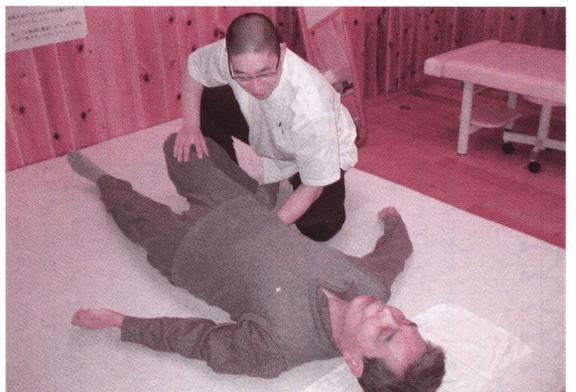
メディカルトレーニングセンターに併設されている空手道場

とした日々を送っていました。いつも具体的な方法を考えていました。なぜなら、会社で言えば理念があつてそれを具体的な商品にしていきますよね。具体的に伝える引き出しというのをきちんと持ってないと、どんなにいい商品になっても、お客さんに買ってもらえないんです。営業力も必要だしその良さをより解かりやすく伝えていく工夫と、より使いやすくする努力が必要だと考えていましたから。

そう考えると、お釈迦さまは人間の感性に訴えながら布教することが上手だったんだと思います。だから多くの人たちの心の中に響くような言葉を残したんですね。プロデューサーがやつぱりうまかった、演出がうまかったんでしょう。そういうことができないかなあと思っていました。

そんなときに交通事故に遭つたんです。これがまた出会いを生みました。

いろんな治療を受けましたがよくならなかったの、いろいろ調べたあげく、いい先生がいるよというので整体というのに行つたんです。そうして回復したものですから、整体の勉強をしようと思いました。晋山式も結婚も先延ばしにして、師匠から「おまえの本業は何なんだ」と言われたこともありました。そこで今までの経験を実現する場としてメディカルトレーニングセンターというものをスタートすること



体の治療を行いつつ心のケアも行う

にしたのです。

メディカルトレーニングセンターで何をしようと思ったのでしょうか。

【高瀬】人間の体は自然システムを持つているんです。だから人間の体というものを徹底的に見直すと、実は精神の動きとか社会の仕組みとか、そして仏教が言わんとしたことが見えてくるのです。しかも体の仕組みになぞらえて説明すると解かりやすかった上に、健康ブームや今後ますます進む高齢化社会の影響もあつて人びとの関心が体に向いているものですから、そこを教化活動に結び付けることができるのではと思いました。

福厳寺メディカルトレーニングセンターには治療部門と教育部門がありま



メディカルトレーニングセンター外観

す。人間は生まれて、それから病気になる、老いる、死ぬ過程を踏むわけですが、治療部門では、苦しみというものから目をそらさないで、ありのままに見ることを行ないます。お釈迦さまは、よりよく人間が生きるためには自分のことをよく知る必要があるから、自分の意識というのを研究したんですよね。私は、それを体に対してもすべきだと思うんです。人は胃が痛い、おなかが痛いというときに、初めて自分の体に気づくんです。その痛いというのをきつかけに治療に来るんですよ。その痛みを治すのはあくまで自身で、私はその手伝いしかできない。痛み、苦しみをきつかけにお寺に来て、初めて自分の心や体の中に意識を向け

る。そして、その痛みを生んだ原因は何だろうか。今度痛みを生まないためにはどうしたらいいだろうかということをも具体的に指摘して、指導をしていきます。

ここから具体的にどうやって自分の生活を見直していくかということの中でトレーニングしていく方法というか、修練していく具体的な方法を提供してあげるんです。

体というものを見つめていくことで、心の仕組みとか仏教というものをもうちょっと分かりやすく伝えていく一つのノウハウを確立したいと考えています。

—今後の展開はどうお考えですか。

【高瀬】 仏教的な理念に基づいた治療、それから一つの人間形成・育成、教育の場としての空手とか、体を使つたセミナーとか、具体的な教化実践方法があると思うので、それを現在体系化してまとめている最中です。その活用システムができたなら、お寺での新しい布教の形として若いお坊さんたちに訴えていきたいですね。今後は若いお坊さんで何かしたいという人がいたら、ノウハウを提供することを考えています。自分のお寺で体を通じた教化方法を活用することができれば、地域の若い人たちとかかわるきつかけができるんじゃないかなということを考えています。

## 福蔵寺メディカルトレーニングセンター (FMT) とは

◎福蔵寺が、地域に開かれたお寺を目指して立ち上げた心身健康増進施設です。小牧市桃花台を臨む丘陵地に4万坪もの境内地を構え、500年以上の歴史を誇る尾張地方屈指の禅寺、福蔵寺がプロデュースする、21世紀型心身健康増進施設、それがFMTです。代表者の高瀬師が自身の経験から、人間の幸せとは「命に感謝し、最後まで自分の命（身体）を他のために活かして死んでいける」生き方だと確信し、そうした生き方を提案するひとつの入り口として、痛みや悩みを持つ人が集う自然整体施療院、初動負荷トレーニングジム、自らを整え、自立を目指す、コンディショニングスクール、空手道場を併設しています。

URL <http://www.f-mt.net/>

ブログ「お寺の子」<http://fmt591.exblog.jp>

### いたーみっしょん

いつも肩から背中にかけて張りがあふ。肩甲骨の内側に五寸釘を思い切り打ち込むか、体中の筋肉をバラバラに分解して、パイナップルに漬けておいてほしいと思ってるくらいだ。普通だった整体院では、拳の果てに「腰に何か悪いのよ」と言われる始末。

高瀬師は、僧侶としての活動の一環として整体治療もされる。だから、今回は、体験取材と称して、体をほぐしてもらおうのだ。お話を伺うのは同行するF師に任せよう。白茶けた冬の小牧の丘陵地、暮色も濃い枯淡の景色とは裏腹に、自称マッサージ師の私は、邪計のマグマを胸にたぎらせて福蔵寺様に会うのであった。

私の下心はお見通しか。優しい師は、少し治療して下さると言う。まさに、下劣あるをもって宝机珍御。しかし、聞けば、痛みを伴わない整体だとか。あの痛気持ちいいのがないのは、ちよつと……でも、食わず嫌いはマッサージ師の名折れ。もしや、今日がマッサージ師の果てに辿り着いたZy Revolutionとなるのかも。

「床の上に寝てみてください。背中の中は、どうですか」背中は青銅のオブジェの如く固まり、腰のS字部分はレインブーツの如くメタリックに弧を描く。

すると、1メートル弱の円柱状の物体が出てきた。それを横に寝かした上に仰向けになるよう指示が出る。そして、言われた通りの動作をすること数分。

「さあ、それでは、また床の上に寝てみてください。どうです」

すると、どうだ。今や、背中は、ふかふかの白はんべんのように。やわらかめのプリンが、重力に任せて沈みこむように、筋肉が床と自然に馴染んでいく。ああ……わたしはなめくじさん……

こわばった体は常住の、軟らかい体は無常のテイスト。なれば、師は、我が体を法の如くにしてくれたのか。体のケアを通じて、仏教を説くのが師の目的だというのが、まさに整体は聖諦に通ずというべし。伝説のゴッド・ハンドは、如意作理の妙術と化して師が掌中にあり。

うん、無常って気持ちいい!!

(責)

聖武天皇一二五〇年御遠忌記念

## 「仏法興隆花まつり」

### 千僧法要

主催

全日本仏教青年会  
全国曹洞宗青年会  
南都二六会  
東大寺

日 時：平成十八年四月二十六日(水)

十三時 集合

十三時半 南大門出発

十四時 大仏殿到着・入堂

十五時半 本坊にて懇親会

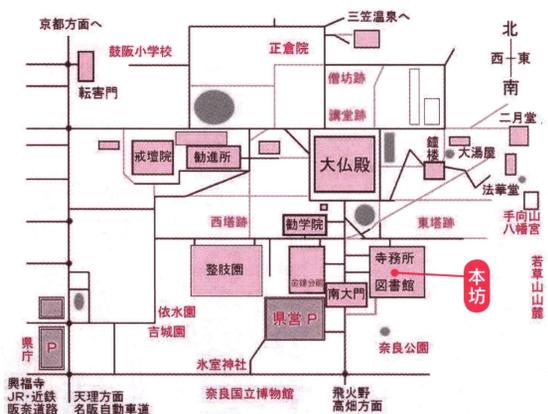
終わって 散会

集合場所：東大寺本坊(掲載地図参照)

会費：三千元

申込先：喜美候部事務局次長 宛

FAX 〇三二四二二一三五二六



### ◇東大寺「花まつり千僧法要」◇

昭和六十三年四月二十六日、全日本  
仏教青年会、全国曹洞宗青年会、南都  
二六会主催により、海外僧を含めた全  
国各地の超宗派一千七百名の僧侶が大  
仏殿に参集し、「花まつり千僧法要」が  
厳修されたのが始まりです。

その後、毎年四月二十六日には「青  
年仏教徒の日」として、大盧舎那佛の  
大悲による、仏法興隆、世界平和の実  
現を祈念した法要が営われています。

※今年には聖武天皇一二五〇年御遠忌法  
要・慶讃行事が行われます。

## 平成十八年度

### 全国曹洞宗青年会定期総会開催のご案内

五月二十九日(月)

十三時半～十七時 第一回評議員会

五月三十日(火)

十時～十二時半 中央研修会

法式委員会

「萬燈供養・祈祷太鼓の手引き」

講習会

十二時半～十三時半 昼食

十三時半～十七時 総会

十七時半～ 懇親会

### 法式委員会より

今年の中央研修会は、さまざまな法式に関する手引きを作成した法式委員  
会を中心に「萬燈供養」の差定・進退の解説と「祈祷太鼓」の初心者向けの  
講習を行う予定です。当日参加される方は、太鼓のバチを二本ご用意下さい。

出席のお申込みについては、各都道府県・各所属曹青会の評議員委員宛に  
所定の用紙を送付致しますので、お取りまとめの上、事務局までご報告い  
ただきますようお願い致します(なお、日程に関しては若干変更がある場  
合がございます)。

★多数のご参加、ご出席をお待ちしています★

委員会紹介

青少年教化委員会

「日めくり伝道句集」は  
こうやって作られました

青少年教化委員会では、青少年教化資料として、これまで二回にわたって壁掛け伝道句集を発行し、おかげさまで、たいへんな好評を博してまいりました。今期は、去年の春から、更なる熱意をもって伝道句集の作成に取り組み始め、一日から三十一日まで毎日めくれる「日めくり伝道句集」を作成してまいりました。今回の伝道句集には、各ページに、伝道句と、伝道句にリンクするような写真が入れてある他、一日から三十一日までの日付が入れてあります。

これは、毎日めくるカレンダーとして皆さまに使っていただくことによって、伝道句と写真にふれていただく機会が増え、その結果「日めくり伝道句集」が、自然に皆さまの生きる力や困難を乗り越えていく力を増すきっかけになればと願い、作成させていただきました。

伝道句については、メールを活用し、さまざまな議論と編集を重ねま

めてまいりました。また、写真については、「壁掛け伝道句集」の前二作で写真とレイアウト等をご担当いただいた(有)ピーエリアの代表取締役・伊藤勝治氏にお世話になり、半数ほどは、青少年教化委員会が独自に収集いたしました。知り合いの写真家に、伝道句に合うような写真をピックアップして



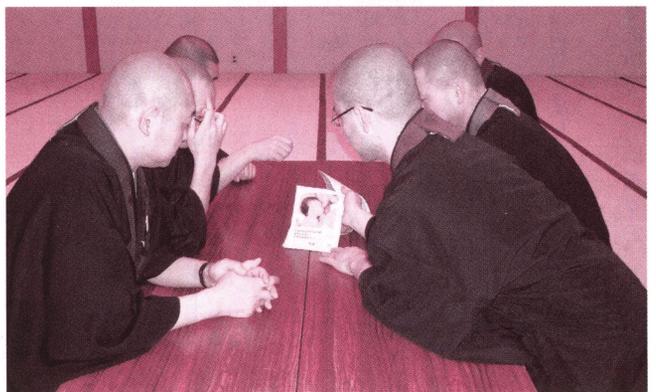
写真家・伊藤氏との打ち合わせの様子

もらったものもありますし、このような写真がほしいとお願いで、新たに撮っていただいたものもあります。また、反対に、写真の素晴らしさから伝道句を作ったというものもあります。その他、「写真だけでは変化がないから、イラストや絵や書を入れてみてはどうだろうか。」という意見もいただいたことから、知り合いの「ろうつ染め作家」荒木久仁子氏(熊本県天草在住)をお願いして写真を撮らせていただき、それを「日めくり伝道句集」に使わせていただいたりしております。

青少年教化委員会は、他の委員会同様、全国各地から委員が集まって成り立っている委員会でありますから、なかなか全員が一堂に会して委員会を開くことはできませんでしたが、総会・評議員会・理事会・執行部会に合わせ、出来る限り委員会を開催いたしました。伝道句や写真のテーマ、レイアウト等の内容については、メールや郵便、チャット会議等を介し、幾重もの編集会議を経て作成して参りました。

その結果、青年僧侶の熱い思いのエッセンスがぎゅっしりと詰まった、現代の青少年の心によりそった素晴らしい作品に仕上がったものと私達は信じております。

実際に、青少年教化委員会の各委員はもとより、その友人・知人、また、写



日めくり伝道句集の見本を囲んで

真家の伊藤勝治氏をはじめとする多くの写真提供者、そして、さまざまなアドバイスをしていただいた諸先輩方など、非常に多くの方がたとの出逢いが必要ならば、この「日めくり伝道句集」を作ることはできませんでした。まさに、この「日めくり伝道句集」そのものが、「めぐりあいの力の結晶」であると言つことができるかと思えます。

ここに、この「日めくり伝道句集」を作成するにあたってお世話になった全ての方がた、また、くじけそうになつた時に励ましの言葉を下さつた多くの方がたに対して、誌面をおかりして厚く御礼申し上げたいと思います。本当

にどうも有り難うございました。おかげさまでなんとか、「日めぐり伝道句集」の発行までたどりつくことができました。「日めぐり伝道句集」の表紙には、

人に出逢い言葉に出逢い  
心が動かされてはじめて  
新しい何かが生まれ

あなたは変わりゆく。

と記されていますが、この私自身が、まさに、多くの慈悲深い人達に出逢い、心のこもった愛語をいただき、心を揺り動かされて新しい道を歩き始め、なんとか、今回の目的地まで到達し、またひとつ成長することができたような感じがしております。そして、いくつもの壁や境界・限界を乗り越えられた、この「日めぐりあい」に心から感謝しております。

最後に、「日めぐりあい」によって出来上がったこの「日めぐり伝道句集」が、一人でも多くの青少年の手元に届き、その新たな「日めぐりあい」によって、青少年の生きる力や困難を乗り越えていく力がはぐくまれ、更に、青少年が新しい一歩を踏み出し、いろいろな人びとと交わることによって、世界中に「日めぐりあいの輪」が無限に広がっていくことを祈念しつつ、筆をおかせていただきます。

(青少年教化委員会委員長)

田中 光頭

各委員  
コメント



委員長  
田中 光頭  
(熊本曹青)

この一年間は、「日めぐり伝道句集」の作成に全精力を注いでまいりました。この日めぐりが、青少年教化の一助となることを心から願っております。



副委員長  
諸岡 幹哉  
(京都曹青)

熱意あふれる委員長さん、素敵な委員の方がたとのご縁を大切に、残り一年間精進して参ります。合掌。



慶徳 雄仁  
(岩手曹青)

青年期という人格形成の大事な時期、いかに若い人達へ仏教を伝えられるか勉強させていただく機会に恵まれたことを感謝いたします。



山本 泰幸  
(山梨曹青)

全曹青との出会いを生かし、自身に厳しく、少しでも青少年の力になるようがんばります。



佐藤 泰元  
(愛知・東三河曹青)

残すところ一年余り、宗侶として青少年教化の一助となる活動を行う所存であります。



秋吉 龍成  
(鹿児島曹青)

社会の一構成員としての僧侶ということに常に意識して、広い視点を持つことを忘れずに活動したいと思っております。



野口 心成  
(曹洞宗長野県第二宗務所 青年会)

現代は、非常に多くの若者が悩み苦しんでいます。「日めぐり伝道句集」が、そのような若者の心の支えになればと思っております。

大本山永平寺御用  
大本山総持寺御用

創業嘉永二年(一八四九)

落雁諸江屋

全沢市増東三丁目六の三五  
TEL(052)241-1504 六八六  
FAX(052)241-1849

日本古来の伝統の技を伝承し、最新技術と調和する。  
魚津の設計と施工

大本山永平寺名古屋別院 山門 (総構造 免震構造)

神社・仏閣専門建築  
(株)魚津社寺工務店

〒454-0004 名古屋市中川区西日置2丁目12番20号  
電話(052)331-3080 <http://www.uotushaji.co.jp>



# 精神医療の現場から(3)

## 僧侶とソーシャルワーク

全曹青 青少年教化委員会委員 秋吉 龍成

今回は就労について書きたいと思います。昨今マスメディアで「働かない若者たち」のことが頻繁に取り上げられます。宗師の中には、親御さんなどから子どもの就労支援をお願いされているという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。社会問題となっている「働かない若者たち」と彼らへの就労支援について、僧侶である私たちはどのようにかわつていけばいいのでしょうか、また何ができるのでしょうか。

私が現在働いている精神科診療所においても、患者さんたちの就職は大きな課題となっています。改正障害者雇用促進法が今年四月から施行されることにより、これまで身体障害者と知的障害者しか対象になっていなかった法定雇用率(常勤職員の約二%は障害者を雇用しなければならない)の枠に精神障害者も入ることになります。就労意欲が旺盛でこの契機を逃さないようにと精力的にハローワーク等に出向き職探しを行なっている精神障害者もたくさんいますが、就労意欲が全くない精神障害者もたくさんいます。特に思春期に精神障害を発症した方の就労意欲が低いのですが、そのほとんどが今まで一度も働いたことがないのです。つまり、何かしらの作業を行ないその対価として金銭をもらうという私たち



が当たり前のように考えている「仕事」のイメージが全く湧いてこないのです。現在問題となっている「働かない若者たち」の中にもこのような人がいるのではないのでしょうか。親を含めた周囲ではないかと思っています。私は、地域に根ざした僧侶が行なう就労支援の中心は、本人に「仕事」のイメージを作ってもらい、職につく以前の仕事への意識の成熟を促すことだと思っています。地域の求人情報を豊富に持っている訳でもなく、適職探しの技術や能力を身につけている訳でもない私たち僧侶ができることは、就労支援を必要とする人の仕事に向かおうとする心を背後から支えることだと思っています。

第一段階としては、まず本人と支援者の信頼関係の構築が必要になります。この段階においては、話し合う内容よりも本人と支援者が顔を合わせる頻度が重要だと思えます。たとえ短時間でもいいので、お互いがストレスを感じない程度に頻繁に顔を合わせることで本人の安心感を引き出すことにつながっていくのではないかと思います。次に、仕事のイメージ作りの段階に入ります。ここでは支援する者の社会経験やフットワークの軽さが重要になるでしょう。どんなことでもいいのです。支援者が経験した仕事の内容や、楽しかったこと辛かったことの話は、本人のイメージ作りの素材になるはずなんです。また、もらった給料が高かった安かったという話や、稼いだお金をどう使ったかについての話は、本人の仕事への動機付けを高めることになるかもしれません。さらに、地域にある工

場から頻繁に働けといわれていながらも、未知の世界に飛び込むことには大きな不安を感じているために仕事をやる気にならないという人が相当数いるのではないかと思います。私は、地域に根ざした僧侶が行なう就労支援の中心は、本人に「仕事」のイメージを作ってもらい、職につく以前の仕事への意識の成熟を促すことだと思っています。地域の求人情報を豊富に持っている訳でもなく、適職探しの技術や能力を身につけている訳でもない私たち僧侶ができることは、就労支援を必要とする人の仕事に向かおうとする心を背後から支えることだと思っています。

浄域・禅の神髄を求めて  
旅行のことならおまかせください。

 **東武グループ**  
**東武トラベル**

〒131-8504 東京都墨田区向島1-33-22 第二東武館 3F  
団体営業部 ☎03-3624-1237

〈主な支店〉  
札幌 一関 館林 栃木 千葉 川越 長野駐在 静岡 名古屋  
法人営業(東京、神奈川、山梨、茨城担当)  
京都 北近畿 大阪 姫路 福山 岡山 高知 福岡 長崎

# IT 智慧ぶくろ

## 読みやすい新聞をつくらせてみよう(最終回)

今回もウィンドウズのワープロソフト「Word(ワード)」を使用し、「そせい新聞」の作成を通してワープロソフトの基本的な機能を紹介したいと思います。今回は文書に「テキストボックス」を用いて表題を付けました。今回はイラストを挿入し、ページ枠を付けて「そせい新聞」を完成させたいと思います。

### 1、イラストを挿入する

イラストを挿入したい所をクリックし、カーソルを移動します。メニューの「挿入」→「図」→「クリップアート」を選択します。図2の「クリップアート」ダイアログ(ワードのバージョンによって表示が異なります)が開きますので、挿入したいイラストを検索してクリックすると、カーソルがあった所に図が挿入されます。



図1



図2

れている不自然な状態なので、文章が図の周辺に配置されるように修正します。図を選択状態にして、メニューの「書式」→「図」を選択すると、「図の書式設定」ダイアログが開きますので、「レイアウト」タブ(図3)をクリックします。「折り返しの種類と配置」を「四角」に設定して「OK」ボタンを押します。すると図の周りに文章が配置されるようになります。図をドラッグ&ドロップすることで図の位置を調整できます。また、図を選択した状態の時に表示される上下左右斜めの黒い点がドラッグして図のサイズを変更することができます。

### 2、ページ枠を付ける

メニューの「罫線」→「線種とページ罫線と網かけの設定」を選択します。表示される「線種とページ罫線と網かけの設定」ダイアログの「ページ罫線」

タブ(図4)をクリックします。種類を「罫線なし」から「囲む」に変更し、線種や太さを選んで「OK」ボタンを押します。するとページを囲む枠が表示されます。

以上で図1の「そせい新聞」の完成です。これまで三回にわたり紹介してきた機能を応用することで、見栄えの良い文書を作成することができると思います。

さあ、これらの機能を使って、今度は皆さまがオリジナルの寺報などに挑戦してみてください。

(記事担当 IT委員会)

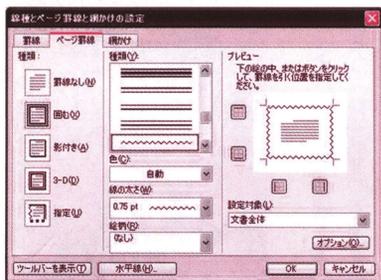


図4



図3

## IT委員会からのお知らせ

全曹青HP(ホームページ)「般若」にて、全国の御寺院様のHPをリンクで紹介しております。最近つくられたHPも紹介したいと考えています。ご希望の方は全曹青HP「般若」のリンクのページにある、申込用のフォームにてお知らせ下さい。

尚、FAXでも受け付けています。県・宗務所・教区・寺番・御寺院名・管理者・URL・e-mail・御連絡先(電話)をご記入の上FAX 0548-54-1133(桑原正寿宛)までお送り下さい。

IT委員会委員長 大野 泰生

# 世界の重層信仰(3)

## インドにおける宗教的重層性

富澤 かな

### ヒンドゥー教

#### ——すべてを取り込む宗教

インドは仏教発祥の地ですが、実はインドの仏教は十三世紀頃に絶えてしまっています。しかしブッタの姿は、ヒンドゥー教の二大神格の一つであるヴィシュヌ神の化身「アヴァターラ」(図1)として、ヒンドゥー世界に残りました。仏教はヒンドゥー教の中に新たな命を得たのです。

人種・文化・宗教の坩堝といわれるインドで約八割の人が信仰している宗教がヒンドゥー教です。インドにはさまざまな宗教思想が現れ発展してきましたが、ヒンドゥー教は、あるいはその源となり、あるいはそれと結びつきそれをとりこみながら、発展を繰り返してきました。ヒンドゥー教には、ブッタやイエスのような創唱者はおらず、聖書やコーランのような根本聖典もなく、統一的な教会組織もありません。輪廻思想、浄・不浄の観念など、広く共通して認められる要素はありますが、一つのまとまった思想を取り出すことは困難です。聖典としては遠く紀元前千年以上も昔にアーリヤ人も



図2 シヴァとその家族

たらしたといわれるヴェーダが最重視されますが、ヒンドゥー教はヴェーダの宗教と考えるとこれも正確ではありません。ヴェーダをベースに始まったものに、実にさまざまな要素が取り込まれて長い時間を経てできあがった思想・儀礼・生活習慣などの総体が「ヒンドゥー教」と呼ばれているといえるでしょう。

どんな宗教もシンクレティックな側面を持つものですが、特にヒンドゥー教の成り立ちには、多様な要素の混淆・融合が本質的な意味を持っています。ヒンドゥー教の二大神格はシヴァとヴィシュヌですが、それぞれが眷属や化身という形で、さまざまな信仰を内に取り込む強力な仕組みを持っています。シヴァの場合、多くの女神が妻のパールヴァティー(図2)の別の姿であるとみなされます。彼女らはヴェーダの伝統とは異質な土着的な信仰の対象であったと考えられます。中でもカーリー(図3)やドウルガー(図4)はシヴァ自身に勝るとも劣らぬ人気を誇っています。彼女らの力(シヤクテイ)を得てこそ、シヴァはヴィシュヌと並ぶ最強の神たりえているのです。

一方のヴィシュヌがさまざまな信仰を取り込んだ仕組みが、先に述べた「アヴァターラ」です。ヴィシュヌの十の化身の中には、桃太郎の起源ともいわれる大叙事詩「ラーマヤナ」の主人公のラーマ王子や、その愛らしさと美しさでインドの人びとに深く愛される英雄神・クリシュナも含まれています。「バガヴァッド・ギーター」で、戦いに迷うアルジュナ王子を教え諭すのがこのクリシュナです。クリシュナのの名には「黒い」という意味があり、その青黒い肌の色は、白い肌のアーリヤ系の神とは異質な起源を示しているともいわれます。ヴィシュヌはヴェーダではマイナーな存在ですが、その化身であるクリシュナは、ヴェーダの神々の中でも特に重要なインドラ神と戦ってこれに勝つことになっています



図4 ドウルガー



図3 カーリー



図1 ヴィシュヌ神とそのアヴァターラ(化身)  
中央はヴィシュヌ神。左右は代表的なアヴァターラである、クリシュナとラーマ

(図5)。ここには、ヴェーダの時代の主神の力をクリシュナー・ヴィシュヌが引き継ぐという物語が成り立っています。アヴァターラの存在によって、ヴィシュヌ信仰は新旧の多様な要素を内に取り込んできたのです。

## ヒンドゥー教とイスラム教 ——対立と融合

ヒンドゥー教が無数の神々を生みだし・取り込みながら生成発展してきたのに対し、預言者ムハンマドの教えを堅く守り、唯一なる神アッラー以外のものへの崇拜を厳しく拒むのがイスラム教です。この二つの宗教思想がインドで出会いました。そこには当然ながら激しい対立があり、それは現代のインドでも深刻な問題をもたらしています。しかし対立の一方には融和と発展がありました。例えば十六世紀ムガル帝国のアクバル帝や、その孫のダーラー・シコーは、イスラムとヒンドゥーの思想を調和・融合しようと試



図5 クリシュナとインドラの戦い

す。そしてそこから従来のヒンドゥー・イスラムの枠組みを超えた宗教性も生じてきます。十五〜六世紀の宗教者カピールやシク教の開祖であるナーナクは、ヒンドゥーとイスラム双方の教えを批判的に統合し、新たな宗教性に至った人物でした。十九世紀には、神は



図6 初代サイババのシルディー・サイババ

みたことで知られています。その背景には、一見対照的に見えるイスラム思想とヒンドゥー思想の意外な親和性があります。ヒンドゥー教は多神教ですが、「梵我一如」の思想や、最高神に対する熱烈な信愛を希求するバクティ思想は、ただ一つの实在を志向する思想に他ならず、それゆえに唯一神アッラーに対する信仰と結びつきやすい面を持っていました。特にイスラム神秘主義のスーフィズムとヒンドゥーのバクティ思想とは、何よりもただ一人の神への熱烈な愛を求めるといふ点で一致しています。二つの思想は相互に影響を及ぼし合って深まっていったので

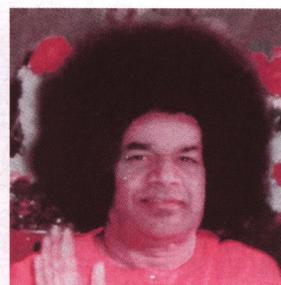


図7 二代目サイババとされているサティヤ・サイババ

一つであると考え、イスラムとヒンドゥー双方の教えを認め、互いに尊重し合うことを求めたシルディー・サイババ(図6)もいます(日本でも有名なサティヤ・サイババ(図7)は、この「初代サイババ」の二代目を自称している人物です)。ヒンドゥー教徒とイスラム教徒がともに参詣するイスラム聖者廟もあります。ヒンドゥー・イスラム関係というと、インドとパキスタンの分離と敵対の歴史、カシミール問題、宗教暴動など、対立ばかりが目につきがちですが、一方にはこのような交流と統合の歴史があるのです。

## 融合の物語の可能性と困難

このような多様な宗教性の出会いと相克、そして共存と融合の過程こそが、インドの宗教史でした。そこで大きな役割を果たしてきたのが、あらゆる要素を取り込むヒンドゥー教という宗教の特質です。しかし、この特質が常に諸宗教の融和をもたらすと考えるのは早計でしょう。「ヒンドゥー教(ヒンドゥーイズム)」は宗教ではなくインド精神そのものであるから、イスラ

ム教をはじめとするあらゆる宗教がヒンドゥー精神のもとに共存しうる」といった主張をしばしば耳にしますが、これは非ヒンドゥー教徒にとっては励ましというよりはむしろ圧迫となりえます。イスラムはヒンドゥーの一部であると考えられることは、イスラムの独自性と尊厳の否定につながりうるのです。すべてを取り込み、すべてがつながりあつて成り立つてきたインドの宗教性には強力なバイタリティがあります。しかしこれをあまりに楽天的に過信すれば、それは逆にその融和の歴史を否定しかねないのです。インドの宗教の多様性と重層性を考えることは、文化間の関係が問われる時代を生きる我々に、今こそ多くの示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。



図8 インターネット上の「アバター」(Yahoo! Avatar より)

ホームページなどで自分の分身として画面上に登場させるキャラクターである「アバター」。この名はサンスクリット語のアヴァターラ(avatāra)の語がヒンディー語・英語を経て発音変化し取り入れられたものである。

○富澤 かな(とみざわ かな)  
東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程単位取得退学(宗教学)。二〇〇五年までテリノ大学文学部哲学科博士課程に留学。高崎経済大学非常勤講師。西洋のインド・イメージの検討を通して、異文化理解の限界と可能性について考察している。

# 禪

## 知識

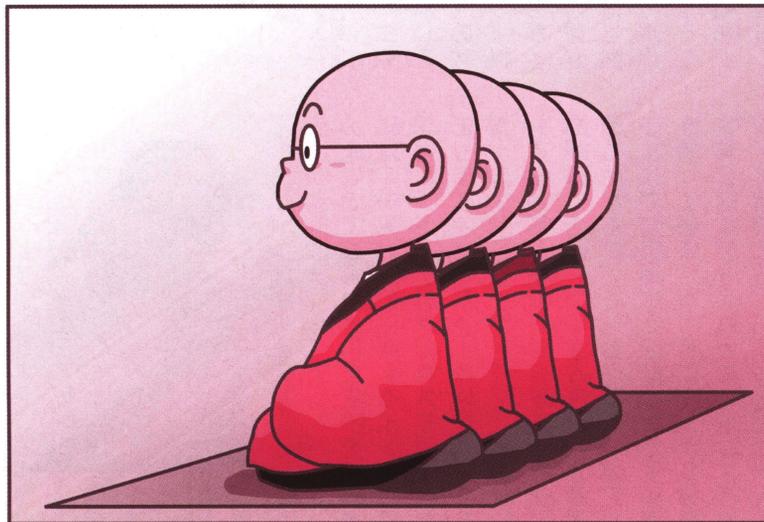
### まんだら(4)

## 止観の坐禅

駒澤大学教授 池田魯参

止観は本来、坐禅と異なるものではないのですが、仏教の歴史的展開において、止観は天台宗のもの、坐禅は禅宗のものというふうにならざるを得なくなりました。これは実に残念なことです。

止観の教理は天台智者大師(智顛五三八―五九七)が『天台小止観』、『摩訶止観』などの著述で、釈尊の坐禅はこういうものであったと体系化しています。禅宗二祖慧可(四八九―五九三)、三祖僧璨(？―六〇六)の時代にあたります。天台止観は坐禅の重要性を強調し、草創期の天台山の教団では「四時の坐禅」が日課になっていたほどです。その坐禅は『天台小止観』に明記している「調身・調息・調心」の坐法で、足は結跏趺坐に組み、手を重ね、姿勢を正し、呼吸を調え、心を整えるのです。坐禅の作法は天台止観で確定したといえます。宗門でも定印は、右手掌の上



に左手甲を重ねます。インドから中国にきた高僧たちがこの形は逆で、左手の上に右手を重ねるのが正しいといくら主張しても、天台止観が『普賢観経』

の説に拠って右手は陽動を、左手は陰静を意味するので坐禅の最中はこの形がふさわしいと理由つけた説は変更されることなく今日まで継承されています。勿論、宗門では坐禅中目を開けていますが、天台止観は目を閉じるのでこの点は違います。伝統的には閉目が一般的だったようですが、『禅苑清規』の「坐禅儀」から開目の坐禅が普及します。如浄禅師は長い間坐禅をしている人は目を閉じてもいいが、初心者は目を開けるよう教えます。如浄禅師は天台止観のようなやり方も認めたわけですが、道元禅師は「目は須らく開くべし」と指示されました。実際、目を開ける方が、睡気を避け易いだけでなく、身のバランスをとる上でも理にかなっています。

天台止観はすべての修行法を行動様式上、(1)常に坐る、(2)常に歩く、(3)歩いたり坐ったりする、(4)その他の歩き立ち坐り臥し言語し作務労働するすべての行動という四種の修行法を説きます。坐禅は常に坐る常坐三昧(一行三昧)であり、修行の原点であると位置づけられます。そこに語黙動静体安然が実

## と き たび こころの時代にこころの旅を

国内団参・海外仏跡巡拝の事なら経験豊かなビーエス観光へお申し付け下さい。

# ビーエス観光グループ

現するわけです。「三昧」とは調直定の義を定義しますので、四種の修行法によつて私たちの人生が調い直り定まるといふのです。

さて止観の語義は、止は、息む・

停める・不止に対する止の意であり、観は、貫穿・観達・不観に対する観の意であるといふ。息む意は種々の悪い思いや妄念妄想が静まること、停める意は心を真理に繋ぎ止めて動かさないこと、不止に対する止の意は無明に対する法性のことであり、貫穿の意は智慧のはたらきが煩惱を穿ち滅すること、観達の意は智慧のはたらきが真実に契合すること、不観に対する観の意は無明に対する法性のことと解します。第三義の説明が同じであるのは、一往は止と観に分けても本来は別なものではなく、止観は人間生存の無明性を明らかにし仏のさとりの実性を究めることに他ならないといふのです。

これは第二釈名（語義の解釈）章の説ですが、第三体相（止観そのものにそなわるすべからざる）章では、止は、体真止・方便随縁止・息二辺分別止の意であり、観は、空観・仮観・中観の意であると説きます。止は真実を体すること・利他行に転ずること・まよいとさとの二辺の想が息むこととあり、観は何が真で何が俗かを知る空の観・真と俗を現実に生かす仮の観・その場その場が生死即涅槃（真俗円融）と証明される中の観になるといふ。そこで一心に（三止）三観が

はたらくとき、あらゆるものごとにならざる空と仮と中の三つの真実（三諦）が即空即仮即中というふうにならざる諸法の真実相が諦観できようといふのです。

第七正修止観（正しく止観を修す）章では一心三観し、三諦円融する真実相を、先ず坐禅について一通り説明し、さらに六縁（行・住・坐・臥・言語・作務）・六境（色・声・香・味・触・法）について補説する構成になっています。

まず、坐禅の主要課題を十境として提示します。(1)陰入界の境、(2)煩惱の境、(3)病患の境、(4)業相の境、(5)魔事の境、(6)禪定の境、(7)諸見の境、(8)増上慢の境、(9)二乗の境、(10)菩薩の境です。陰入界の境とは五陰・十二入・十八界の三科の教えのことです。仏教の根本教説を原点にすえて、色受想行識の五陰（五蘊）は皆空であり仮であり中であるというふうに見るのです。この身心（五蘊）の問題が十境それぞれの課題として具体化していくわけです。

この心が、この身体が不思議（妙な境界であると諦観できると同様に、この煩惱は、この病氣は、この宿業は、この魔事は、この禪定は、この諸思想は、この慢心は、この仏弟子の、この菩薩の境界はいずれも不思議の境であると諦観されます。不思議とは思ひ議ることができないという意味で、宗門の非思量・不思議と同義語です。箇の不思議底を思量する宗門の坐禅は、

この心は、この身は不思議の境であることと観じていく天台止観と同じ構造であることがわかります。十境それぞれに(1)これは不思議の境であると観じ、(2)慈悲心を起し、(3)巧みに止観に安んじ、(4)充分に諸法を解し、(5)通塞を知り、(6)道品を修め、(7)助道を用いて対治し、(8)次位を知り、(9)安んじて忍び、(10)法愛をなくす、十種の止観法が適用されますので、これを「十乗観法」と呼びます。

このように天台止観は、不思議（妙）の坐禅、すなわち凡夫の坐禅ではない、仏の坐禅はどういうものかを教え、修行者の現実の問題に即して懇切に説明しています。道元禪師が『摩訶止観』に出る「或從知識、或從經卷」（ある

いは知識に従い、あるいは経巻に従つて）や、「感応道交」などの成句を頻りに引用される秘密の一端がこれでおわかりいただけるのではないのでしょうか。

○池田 魯参（いけだ るさん）



一九四一年長野県生。駒澤大学大学院博士課程満期退学。駒澤大学仏教学部教授。専門は中国仏教・天台教学・道元学。著書『宝慶記―道元の入宋求法ノート―』『現代語訳正法眼蔵随聞記』他がある。

### 「禅知識まんだら」実践版 ― 上座仏教の坐禅法講習会 ―

以下の要領で講習会を開催いたします。奮ってご参加ください。

- 一、期 日 平成十八年度全曹青定期総会にて告知（二泊二日）
- 二、会 場 青松寺様（東京都）
- 三、講 師 ギヤナ・ラタナ長老
- 四、定 員 『まんだら』一三二号「禅知識まんだら」執筆者
- 五、参加費 二十名程度
- 五、参加費 五千円（予定）

\*お申込・ご質問等は、左記の担当者までご連絡ください。

参加を希望される方には、参加要綱等を事前に送付させていただきます。

連絡先・青野貴芳（養雲寺副住職）

〒四一六・〇九三二 富士市柳島二二一

FAX 〇五四五・六一・三九六八

E-mail caitanya@nifty.com





# 曹洞宗福島県青年会

足元 昭 和 3 9 年 夏  
 会長 佐 藤 滋 光  
 副会長 仙 波 泰 秀 ・ 阿 部 光 裕  
 事務局 長 木 町 元 秀  
 庶務 滝 沢 勝 俊  
 会 計 鹿 山 貴 裕  
 員 1 0 8 名

**曹** 洞宗福島県青年会(以下曹福青)は、昭和三十九年夏に第一回緑陰禅のつどいが開催された後に発足し、その後昭和五十年三月、初めての総会を開催し再発足しました。県内六支部に分かれ、県内寺院に在籍(在住)する宗侶で満十八歳から満四十五歳を迎えた定時総会までを正会員とし、平成十八年一月現在百八名が在籍しています。

**な** んといつても曹福青の活動の中で一番注目すべき点は、「禅の磨力レンダー」の作成販売です。これは昭和五十六年、檀信徒の布教化を目的として会員が企画立案し、県内在住のご老師方に禅語を揮毫していただき、それをカレンダーにまとめ県内ご寺院様を対象に販売したのが始まりで、おかげさまで現在では全国各地のご寺院



県内では何十ヶ所で行われている禅のつどい



長野県神宮寺様での研修会

様を通じ十三万部を超える販売総数となっており、カレンダー作成委員会を立ち上げ、題材、写真の選定、色彩やバランス、禅語の選定等々全てを何度も検討し、その作成にはなんと二年前から準備にかかります。今年もすでに来年のカレンダー販売に向けて準備を進めています。もしまだ曹福青のカレンダーをご覧になっていない方があればぜひご注文をお願いしたいと思います。檀信徒の皆さまにお歳暮や御年始等で配布いただければきっと喜ばれると確信します。尚、カレンダーの売り上げの一部は浄財として毎年日赤やSVA等を通じボランティアに協力させていただいております。

**曹** 福青のここ十年間の活動を振り返ってみますとまず頭に思い浮かぶのが、平成十一年十一月に行った報恩大授戒会です。平成十年に当時の總持寺副貫主板橋興宗老師を迎え「禅をきく会」を開催した時に、当時の会長より「来年はお授戒を修行したい」との一言があり、翌年開催に至りました。しかしながら準備までの一年はあまりにも短く中々先が見えずに苦勞の連続でしたが、結果的には約三百名の戒弟が集まり、当時の大本山總持寺貫主板橋興宗禪師戒弟のもと、無事円成したことがついに昨日のように思い出されます。またその翌年にはこの時参加された戒弟の皆さんを招待し、再び板橋禪師をお招きして報恩説戒会を開催しました。今も頭に焼き付いているのが、板橋禪師の「三年続けて福島県の皆さんにお会いできてたいへん嬉しく思います」とのお言葉です。このお言葉を耳にした時、それまでの苦勞が全て忘れ去られジーンときたことを今も覚えております。その後も平成十三年度禅文化学林福島大会、三管区合同全曹青三〇周年記念事業福島大会などの大きな大会がここ福島で開催されその準備に追われたことも思い出されます。

**現** 執行部になってからの活動を振り返ってみますと、平成十六年の新潟中越地震の際、当会として初めてのボランティア活動に参加して参りました。全くの素人が現地に行つて何ができるのかと苦悶いたしました。ただ何もわからぬまま黙々とみそ汁の具の野菜を刻む参加者の姿を見てこれで良いのだと少し感じました。また平成十七年三月には、長野県神宮寺様・長福寺様への研修旅行を企画し、神宮寺様では末期医療を通じて住職としての立場から「死」を直前にした患者さんに対しての精神的治療法や故人の

との一言があり、翌年開催に至りました。しかしながら準備までの一年はあまりにも短く中々先が見えずに苦勞の連続でしたが、結果的には約三百名の戒弟が集まり、当時の大本山總持寺貫主板橋興宗禪師戒弟のもと、無事円成したことがついに昨日のように思い出されます。またその翌年にはこの時参加された戒弟の皆さんを招待し、再び板橋禪師をお招きして報恩説戒会を開催しました。今も頭に焼き付いているのが、板橋禪師の「三年続けて福島県の皆さんにお会いできてたいへん嬉しく思います」とのお言葉です。このお言葉を耳にした時、それまでの苦勞が全て忘れ去られジーンときたことを今も覚えております。その後も平成十三年度禅文化学林福島大会、三管区合同全曹青三〇周年記念事業福島大会などの大きな大会がここ福島で開催されその準備に追われたことも思い出されます。

救急蘇生法講習での実技体験



**と** にかく曹福青は行事が何かと多いのですが、一番胸を張って言いたいことは会員が皆協力的で団結力があるということです。この団結力を大切に今後も「福島はひとつ、東北はひとつ、全国はひとつ」の精神で更なる邁進をしていく覚悟でございます。どうか今後とも皆さまのご指導ご協力を厚くお願い申し上げます。曹福青の活動報告とさせていただきます。 合掌

意思を尊重する葬儀の在り方などを学び、長福寺様では差別戒名墓石を拝見させていただき、参加者全員で追善法要を勤めさせていただきました。また昨年暮れには消防士さんと医療専門学校先生をお招きし、救急蘇生法の講習会を開催しました。実技を交えた本当にためになる講習会でありました。同じく昨年暮れには、心理カウンセラーの富田富士也先生をお招きし「開かれたお寺」をめざすカウンセリング実践講座」と題し講演を頂戴しました。またこの他にも支部対抗の親善ソフトボール大会、いも煮会、忘年会、ボーリング大会等も随時開催し会員相互の親睦を深めました。



富田先生による講演会

# そうせい 相談室

相談員 石上 博國

**Q** 私は二十八歳の僧侶です。何か社会参加をしなければという思いから、老人福祉施設でのボランティアや身近な環境保護活動（海岸の掃除など）などをしてきました。当初は、それらの活動をしているだけで充実感がありました。最近、自身の感情の動きを持て余している状態です。どういふことかというところ、こうした活動に興味は示しても参加まではしないという人の多さ、その一方で、お金に仕えるような生き方ももてはやされている（ように思える）世間の風潮などに「怒り」を感じつつ、自分のできるこの小ささにも腹が立ちます。戒律では怒るべからずですが、こうした自身の「怒り」に対して、これまでは「正義感」の故であると納得しておりまして。しかし、近頃は、「正義感」という響きのよい名前に酔いしれているだけで、しょせん「怒り」は「怒り」ではないかと感じ、その「怒り」を抑えきれずに活動している自分に苛立つばかりです。こんな心の状態で、私は今後どのようにして活動し続けられるのでしょうか？

**A** 先ず、実際に身近なボランティア活動をしていらつしやることに敬意を表します。「ミニ」つ拾うにしても、実際にやってみるとその瞬間瞬間に、躊躇や葛藤があるものです。行うことは、せ口からプラスへの大躍進です。伝教大師の「禪を照らす、これ則ち国宝なり」のお言葉を深く味わうべきでしょう。

道元禅師様も「みずからが所作なりといふとも、しずかに随喜すべきなり。諸佛のひとつの功德を、すでに正伝しつくれるがゆゑに。菩薩の一法を、はじめて修行するがゆゑに」菩提薩埵四摂法巻と仰っています。佛様と同じ慈悲の行が出来た自分を喜ぶ、という信心が大切ですよ。

ご質問に対して、貴僧がどうすべきかという野柄の愚見は後回しにして、先ず、怒りそのものについての野柄の考察を述べます。

第一に、怒りは思い通りにならないときに起こります。  
第二に、ご指摘の通り、怒りは、正義感より起こります。  
第三に、怒りは、自分に対して起こっていることが多いように思われます。

ご存じの通り、怒り（瞋恚）は、三毒の一つで思い通りにならないことに腹を立てることです。思い通りにならないことを、「正然である」とか、「仕方がない」と思えるときには腹は立ちません。「何とか出来る」とか、「何とか出来たはずだったのに」と思う（無意識も含めて）ときに、怒りが起こります。これが第一です。から、「仕方がない」と思うようにするか、「何とか出来たはず」を優先して今出来ることを努力精進すること二つの選択があります。

第二に、怒りは、正義感から起こると私は考えています。怒るのが当然だと思えるときにしか怒りは起こりません。自分が100%悪いと思われるときには怒りは起こりません。例を挙げてみます。自分が悪かったと思い、相手に謝るとしましょう。最初は相手になじられても、「相手が怒るのは当然だ。」と素直に受け入れられるでしょう。しかし、あまり酷いことを言われると、段々腹が立つてきます。そう、段々です。「そこまで言われなくてもいいだろう。我慢の限界だ」と怒りが発生します。言われ過ぎていて自分の方に正義が生じたからです。「盗人にも三分の理」というのはこのことではないでしょうか？

遺経の中に、「怒りは今までの苦勞を水の泡にする。怒っているお前さんを誰も見たいとも思わない（意識）」と在りますように、いかに正義感でも、怒りは失うものが多すぎるから止めようと思つのが得策でしょうか？

第三に、怒りは自分に対して起こる事が多い、と私は考えています。怒りの原因のように思われている相手の言葉や出来事といった「思い通りにならないこと」は、怒りのきっかけであって、本当の原因ではありません。自分自身に腹を立てているのが、怒りの本当の原因です。例えば、馬鹿にした相手の言葉に腹が立つたのではなく、馬鹿にされるようなことをしてしまった自分に腹が立っているのであったり、見え透いた悪意のある言葉に腹が立つたのではなく、その程度の言葉に動揺してしまう自分、相手の罵にはまってしまつ自分に腹が立っているのだと私は考えています。

ここは難しいところですが、「迴光返照の退歩を学すべし」とか「脚下照顧」と言われるのもこのところでしょう。静かに自己を見つめることが必要です。「静かに」が大切です。完璧主義の吾々日本人は、つい自分を責め過ぎてしまします。自己に求めるのも、やはり止めどない欲望であって、節度を必要とします。仏教は、「寛（ゆる）し」の教えですから、時には自分にも寛大であることが大切でしょう。

この三点から、怒りの調伏は、必ずしも境（自分の皮膚の外の物事）を変えることが絶対条件になるのではなく、自己の身心の錬磨によってこそ出来るものです。怒りの調伏は、菩提への階梯、求道者の悟りへの絶好の道具と言ってもよいのではないのでしょうか。

野柄は、この三点を踏まえた上で、「なかなか好い所あるじゃないか」とか「可愛い奴だ」とか「まあ、悩むのは生きてる証拠だ、有り難いじゃないか」などと思いつつ、自分を高いところから見つめて楽しむような姿勢で、坐禅するのが一番の解決策になるように思っています。

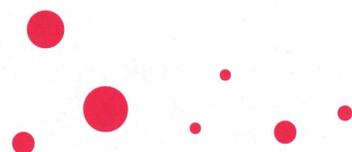
○石上 博國（いしがみ はくこく）



昭和三十一年生まれ  
昭和五十七年秋～五十八年秋 永平寺安居  
平成五年～八年 總持寺布教師補  
平成十四年～現在 特派布教師  
現在 總持寺布教師会常任理事  
碧雲寺住職



# あまんず そうせい



## リベラ

素敵な音楽との出会いに魂が揺さぶられた。その名は「リベラ」。平均年齢11歳～12歳の少年たちによって構成されるヴォーカルグループであり、グループの名前がそのままアルバムタイトル「リベラ」となっている。聴き始めてすぐに、胸がつねられたような気持ちになった。そして喉が心地よく詰まり、そのまま涙ぐんでしまった。

既にご存知の方も多いと思うが、ご存知でない方のためにかいつまんでご説明。まず、ウイーン少年合唱団のようなボーイソプラノの響きをご想像いただきたい。そこから「宗教くささ」を差し引き、例えば真夏に訪れた高原で迎えた朝、あるいは満天の星がざくざく見える八ヶ岳の夜、そのような澄んだ空気にも似たきよらかな響き。

確かに「宗教くささ」は無いのだが、しかし、祈りの力や魂の力を感じさせる。彼らの歌声がそうであるということに加えて、私の中にあるスピリチュアルな領域が、彼らの歌声に鼓舞されているのかもしれない。“仏性”“靈性”というものでなく、そのような「言葉」も「意味合い」も抜きにして、「心安らかな」とか「心きよらかな」とか、そういう日常時どき訪れる感覚を想起していただきたい。

それにしても、このハモリの美しさは、まさしく「純正」である。音が、あるべき位置にその都度配列し、色合いと温度を変えつつ聴く者の中に飛び込んでくる。決して突き刺すことなく、かといって退屈でもなく、窮屈でもなく。常に丁度良くきらきらしている。

長野県東昌寺副住職 飯島 恵道

あつという間の49分13秒。しばし余韻にひたる。高音の響きが耳に残って離れない。私は高音が好きである。儂く、強く、陽気で且つ悲しく。

訪問看護師として働いていたときのこと。最期の時を家で迎えたいと望み在宅療養を続けておられた患者さんのベッドサイドに赴いたとき、神山純一のシンセサイザーのCDがかかっていた。リベラを聴きながら、その時感じた空気を思い出した。「もう、長くは生きられない」と訴えるその患者さんに対して、「スピリチュアルケアの必要性あり」と看護計画が立てられていたが、スピリチュアルケアを提供できたのは、私たち医療者ではなく、もしかしたらそのCDだったのでは、と、今もなお思う。

できるものなら、聴く者に安寧を与えるリベラのような“音”を発したい。東昌寺を舞台にそれを実現してみたい。と、私の夢を東堂、住職、関係者一同に説明するのに非常に苦勞するあたりで、「これぞ現実」と嘆息するあまんずであった。やれやれ。



### ◇筆者プロフィール◇

飯島 恵道 (いじま けいどう)  
長野県松本生まれ。尼寺育ち。生と死、命をキーワードに、僧侶としての活動の中で、看護師資格をいかせる現場を模索中。

授与品・記念品・その他 寺院用品



井筒 授与品部

〒601-8348  
京都市南区吉祥院観音堂町23番地

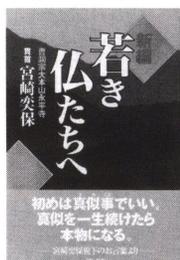
TEL 0120-075-820  
TEL 075-672-8100

FAX 0120-075-890

井筒  
授与品部



## 禅師さま 105 歳のご説法



### 新編 若き仏たちへ

曹洞宗大本山永平寺  
貫首 宮崎奕保 猊下 ● 著

読者から大反響！一やさしい語りかけで、とにかくわかりやすい。長年の心の霧がはれました

■定価1,500円(税込) / 四六判上製・248ページ

(株) ぱんたか Tel 03(3802)3450  
Fax 03(3802)8871

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-21-1 MC 88 ビル 2F

# 黒胡麻おしるこ

とろりなめらか健康の秘訣・胡麻



みなさん、こんにちは。胡麻と聞くと「身体に良いので健康」と頭に浮かぶ方が多いでしょう。胡麻は仏教と共に渡来してきたともいわれ、ビタミン、ミネラルを備え、優れた栄養食品で老化防止になることは、ここ数年注目を集めていますね。今回は、デザート感覚で『黒胡麻おしるこ』を作りましょう。アズキで作るのがおしるこである…と凝り固まらず、風変わりなデザートですが試してみてくださいいかがですか。大勢集まる時、子どもたちが集まる時、そんな時に便利な一品で喜ばれることでしょう。

**材料(4人分)** 【写真①】  
 黒胡麻(100グラム)、水(800cc)、  
 くず粉(大さじ2)、砂糖(60グラム)、  
 もち(4個・白玉でも可)

**作り方**

- ①黒胡麻を熱したフライパンで約1分炒る。【写真②】
- ②その後30分黒胡麻を800ccの水に浸し、それをミキサーに30秒かける。【写真③】
- ③ミキサーからそのまま鍋に注ぎ砂糖を加え、沸騰したら弱火で5分煮る。【写真④⑤】
- ④くず粉を同量の水でといてとろみをつけ、こんがり焼けた餅をのせていただく。【写真⑥⑦】

\*味見をしてみても砂糖をお好みで加えても良いです。

\*胡麻の代わりに、さつまいも・かぼちゃ等でもチャレンジしてみてください。

**文 白澤 雪俊**(しらさわ せつしゅん)

昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学(仏教科)に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に随身(住職にお任せし学ぶ修行僧)として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間の中、約三年間を典座寮に配される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。  
 著書:『身体にやさしい料理をつくらう!』(ニエートプレス)  
 ホームページアドレス  
<http://www.ocn.ne.jp/~yamakan/>

# 寺族の窓

静岡県庵原郡蒲原町 泉龍寺寺族 鏡島 眞理子

○鏡島眞理子  
昭和三十年静岡県庵原郡蒲原町の臨濟妙心寺派靈光院に生まれる。実践女子大学政学部卒。昭和五十四年同町泉龍寺に嫁ぐ。一男二女の母、平成二年同寺が経営する学校法人蒲原梅花幼稚園園長となる。

臨濟宗の寺に生れ、二十四歳で曹洞宗の寺に嫁して、早二十七年。寺の外から、寺を眺めることもなく、井の中の蛙よろしく、寺の中の娘、いや、おばあさんになろうとしている。長いこと白髪のなかった頭にも、一本二本と、老眼鏡を掛けて見ると、しっかりと確認できるようになった。目奥度く偕老同穴の契りを結び、共に白髪の生えるまで、という約束は、充分果たされたという訳である。住職の頭は、とくに白髪交じりとなり、剃髪していれば分らないが、少し長く伸びてくると、ずいぶん生えていることが分かる。私のような寺族を管理している人一倍苦労が多く、白髪も生えるということかと、申し訳ない思いである。

そもそも、全く付き合ったこともなく、電話一本で、私たちの結婚は決まった。義母が、「うちの元昭が、眞理子さんを貰いたいと言っているので」と、朝ご飯の時間に電話を掛けてきたのである。父は、「さつさと行けばいいんだ」と、まるで注文を受けたお蕎麦屋さんのように、母に返事をさせて、その場で話を決めてしまった。生家の寺と、泉龍寺は、車で四分の距離なのである。さつさと行けと言いながら、遠くにはやれなかったようだ。十年も経ってからは、義母が、元昭さんに、「眞理子さんが来るって言うけど、どうする」と言っていて、誘導尋問していたことが分かった。お互いに、時、既に遅し。色々な偶然や必然が重なって、二軒の本尊様の相談で成り立つたことだと、今では二人で納得している。私は、寺

に生れた女の子は寺の嫁になるものだと、幼い頃から言われて育った。親の言うとおりに嫁に行くものだと思いついていたのだ。出家主義の禅宗において、寺の夫婦の結婚生活も、仏道修行のうちだと言ったら、笑われてしまうかもしれない。しかし、相手との相性の良し悪しなど、単なる思い込みに過ぎないという親の説は、正しかったと思っている。住職という三宝の一つを大切に、敬い、信じるなら、相性を超えて赤りある世界が広がるからである。

二月で二十五歳になった長女に言わせれば、私は化石だぞうだ。化石の娘は、ぶっぶっ言いながらも、家事手伝いという、いまだき最も地味な仕事を、修行中である。ろくな駄も出来ず、幼稚園ではあまりにユニーク過ぎて、地元の小学校へやるのも気が引けた。たまたま近くに私立に通っている子がいて、誘われたのを良い事に、そこへ通学させた。一年生のマラソン大会の練習では、素晴らしい松林の誘惑に勝てず、途中でお昼寝をしていたが、中学時代、「NINETOKYO(東京)」、を過去形にするように言われて、しばし考えた結果、「NINE in EDO(江戸)」と答える始末。いまだに、日本語だって、怪しい限りである。

徒弟の育成は、住職の義務であり、寺族のつとめだが、寺族の育成は、誰の仕事か責任か、いや、そんなものはないのか。わが寺の徒弟や寺族たち（私も含めて）を眺めると、益々白髪が増えそうなの頃である。

## 「ARAKANKAN」の

### 独り言

#### 音の手触り

私が依頼を受けて出かける先に持つていく音具には色々なものがあります。京劇のドラやバキスタンの太鼓、チベットやネパールの法具……。さらに自分で音具を作るようになって、それらは結構な数になっています。今回は、普段私が使っている音具のひとつを紹介してみたいと思います。

イラストの少年が持つていたのがその音具で2mほどの竹の棒です。一年乾燥させた後、節を抜いて棒のまわりに沢山の穴を開け、その穴に細い竹棒を差し込みます。その数約二千本。中に貝殻、海岸の小石等を入れ栓をして完成するのですが、静かに傾けると実に優しい音が部屋の中に拡がります。(音は素材から想像してみてください)

この音具、実は南米チリの雨乞いの儀式で使われる「パット・デ・ジュビア」というものを参考にして作ってみました。現地ではサボテンを利用して作るのですが、水という生命に関わる中から生み出された祈りの音といえるものです。

ある小学校の授業で、この音をモデルにしたレインスティックというものを使ってみました。子ども達にはとても長く長い竹に見えたのか、目の前に登場するとワーツと大きな歓声が上がります。私が口に手を当ててシートと合図し、手のひらを耳に当てて音を感じてみて、と促すとシーンと会場は静まりかえります。その中に「シャー…サラサラ…カラカラ…カラン…」と音が伝わって行きます。すると、またまた大歓声。子ども達は

### 宛 転 偏 円

華嚴宗大本山東大寺創建の歴史は、神龜五年聖武天皇の皇太子基（もと）王の菩提を追修するために建立された金鐘山寺にまで遡る。

この金鐘山寺において、天平十二年、後の東大寺初代別当になる良弁が主宰し、初の「華嚴經（大方広仏華嚴經）」の講読がはじめられた。この講義は、ブツダバドラ（仏駄跋陀羅）の『六十華嚴』をテキストとし、また中国華嚴宗の第三祖法蔵の『探玄記』を参考に、三年間にわたり行われた。一般に盧舎那大仏の造頭は、聖武天皇による河内国知識寺の盧舎那仏参拝がきっかけと言われるが、このことから、華嚴經の教理が明らかにされて初めて盧舎那大仏造頭の発願がなされたことは明確である。

「盧舎那大仏造立の詔」の中で述べられているように、「乾坤相泰らかに万代の福業を修め、動植咸く栄えん」ことを願い、国民に「一枝の草、一把の土」の結縁を訴え、知識として自主的に造営に関わることを呼びかける聖武天皇の姿勢は、それまでの国家事業の進め方とは大きく趣を異にするものであったという。

本年も四月二十六日に、全日仏青・全曹青・南都二六会・東大寺主催による「仏法興隆花まつり千僧法要」が執り行われる。本年は、東大寺信徒により写経された六百巻の大般若転読が行われる法要の導師を務めさせていただくことになった。三笠山麓の新緑の中に、燦然と鴟尾を輝かせている大仏殿に奉られた、その盧舎那大仏台座の蓮華にうつすらと刻まれた華嚴經を目前にするとき、仏法が今日まで多くの人びとの心の灯火となつて受継がれてきたことを改めて思い知らされると同時に、我が身の引締まる思いがすることであろう。

全国曹洞宗青年会 会長 宮 寺 守 正

### 編集後記

宗教教育企画立案のきっかけは、一年前の朝日新聞（二〇〇五年一月二十六日付）紙上で拝見した、梶原敬一先生の「教育に宗教心を生かす目的は考え抜く人を育てること」とのご意見に感銘を受けたことでした。小中学校で学んだ記憶は遠い過去のものとなりましたが、その後一人の僧侶、また一人の社会人となつたいま、つくづく思うことには「自分はどう考えるのか」「自分の意見はどうなのか」が自分でも明確でないということです。ある年の小学校の通知表所見欄に先生から書かれた「周りに流されやすい」とのコメントが、いまだに自身の課題なのだと気づかされました。しかし、本誌の編集という大役を頂戴したいま、この自己の課題を課題として受け止め、少しずつでも「考えたこと」を発言することが梶原先生からのご指導への恩返しであり、仏縁への報恩ではないかと考えています。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

### 《お詫びと訂正》

一一三二号 二十七頁 筆者プロフィール内において次の誤りがございました。  
 (誤) 著書に『故事究明の思想と方法』(法蔵館)  
 (正) 著書に『己事究明の思想と方法』(法蔵館)  
 お詫びして訂正いたします。

「そうせい」に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
 ○あて先  
 〒三六九-〇三〇一  
 埼玉県児玉郡上里町金久保七〇一  
 陽雲寺内 そうせいサロン係

FAX 〇四九五-三三八二五五 武田まで  
 メール 16th-kohoh@mbp.nifty.com

次々と音に手を伸ばして、それに触るうとします。笑顔、笑顔、笑顔。  
 このような子ども達の様子をみてみると、音に触れるということは心に触れるということなのだなあ、ということを感じてきます。触れることで、相手を知りたい、そして自分も知って貰いたいという、人としてとても自然な心の動きが手に取るようにわかるからです。「音」に次々と手を伸ばし続ける子ども達の笑顔と声は、拡がっていく音と交わり合つて会場全体をとめてたたかき包んでいました。



### ◆ 荒 利美(あら としみ) プロフィール

一九六〇年 福島県新地町生まれ、鍼灸師。治療のかたわら、竹や瓢箪などのオリジナル・ハンドメイドの楽器を作り、演奏活動をしている。  
 最近では、「子供の情操に訴える演奏家」として、各教育機関や、各宗派寺院、各曹青会へも講師として招かれ、子供たちと「音」を交信している。

※『ARA・KAN KAN』とは？  
 本人のニックネーム。演奏活動で「空缶」を使用することから、その音を取って命名す。

# そうせい美術館

S O U S E I G A L L E R Y



## 産土（うぶすな）

葉っぱ一枚にしてもタイボクが必要であり、雨としての水が必要であり、空気としての風が必要であり、そこには土もある。

そんな土地には植物のいぶきと動物のいぶきとがまじり合っている。

・ うぶすな（産土） ・ ・ ・

## 作者プロフィール

山田 大 輔（やまだ だいすけ）

1976年 静岡県沼津市生まれ仙台市在住。1998年 東北工業大学 工業デザイン科卒、大学時代は銅版画の制作をする。現在、仙台、宮城蔵王、福島や東京銀座などで個展を開催している。2005年 仙台・ファッションモール セルバにて個展を開催。ネパールの刺繍師と協同制作した刺繍作品、シルク糸、毛糸を使った絵画、陶器への絵など、素材にこだわった作品を制作している。

